

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学／病院臨床心理学						
担当教員	唐津 尚子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>臨床心理学を実践する現場として、病院もその一つに挙げられる。「身体の不調」を訴えている方は、同時に不安や苦悩、辛さや悲しみを抱えていることが多いことだろう。また、「身体の不調」自体の背景に心理社会的背景を持っている場合もあるだろう。したがって、来院される方に対して円滑で効果的な治療を進めていくために、臨床心理学的アプローチが重要な意味を成す場面も多くあると考えられる。</p> <p>本講義においては、病院に来院される方に対し、臨床心理学的アプローチを行っていくことを視野に入れ、具体的に用いられる方法についての基礎を学習していく機会にしたいと思っている。また、心理士が病院で仕事をするにあたって心がけるべき言動・姿勢・態度や患者様・病院スタッフと関わっていく上で意識すべき点などについても触れていきたいと考えている。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：病院臨床心理学…講義についての概要 第2回：医療現場において必要とされる心理職について 第3回：ストレスについて ①ストレスについて知る 第4回：ストレスについて ②ストレスと疾患との関連 第5回：ストレスについて ③ストレスへの対処と臨床心理 第6回：こころと脳 心身相関 第7回：医療現場と臨床心理 交流分析① 第8回：医療現場と臨床心理 交流分析② 第9回：医療現場と臨床心理 認知行動療法① 第10回：医療現場と臨床心理 認知行動療法② 第11回：医療現場と臨床心理 そのほかの心理療法 第12回：医療現場と臨床心理 心理アセスメント 第13回：メンタルヘルス 第14回：講義全体の整理とまとめ 第15回：講義の理解度を確認する…試験</p>						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	適宜資料を提示する。資料に沿って講義を行う。自身でいろんな心理尺度を使って、自己の現状を把握してもらうなども行っていく。						
評価方法 Evaluation	平常点：30% ミニレポート：10% 定期試験：60% で評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁。病院で臨床心理学を実践する、ということに対して何らかの興味関心を持っている学生の受講を望む。						
教科書 Textbook (s)	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。						
参考書 Reference (s)	金芳堂「プラクティカル 医療心理学」飯田紀彦 編集 その他参考文献はその都度、講義中に紹介する。						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理系大学院入試の専門英語対策としての授業である。大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。よって、この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: Early social development 9. Developmental psychology: attachment 10. Developmental psychology: Bowlby's theory 11. Developmental psychology: types of attachment 12. Perception: Top Down process 13. Perception: Bottom up process 14. Perception: Development 15. Perception: Nature-Nuture debate
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	論文講読 発表形式
評価方法 Evaluation	課題（20%）、授業準備・ディスカッション（80%）
履修上の注意 Requirements and policy	日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	資料は適宜配布する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理系大学院入試の専門英語対策としての授業である。大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。よって、この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Perception: Face recognition & Agnosia 3. Learning: Classical conditioning 4. Learning: Operant conditioning 5. Learning: Conditioning and behavior of animals 6. Social psychology: Conformity 7. Social psychology: Conformity to majority 8. Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9. Social psychology: Obedience to authority 10. Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11. Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12. Psychopathology: Biological approach 13. Psychopathology: Psychodynamic approach 14. Psychopathology: Behavioral approach 15. Psychopathology: Cognitive approach
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	論文講読 発表形式
評価方法 Evaluation	課題（20%）、授業準備・ディスカッション（80%）
履修上の注意 Requirements and policy	日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。実際の試験では電子辞書を使えない場合が多いので、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	資料は適宜配布する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学校と臨床心理学／学校臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：学校現場で起きているさまざまな問題について、臨床心理学的な観点から理解を深めることを目的とします。</p> <p>概要：毎回具体的な教育課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、スクールカウンセラーの実践等についても事例を用いて理解を深めます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 学校教育の意義と課題</p> <p>第2回 臨床心理学の歴史と現状</p> <p>第3回 不登校(1) ～不登校の歴史と現状～</p> <p>第4回 不登校(2) ～不登校問題への理解と接近</p> <p>第5回 学力低下 ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第6回 学級崩壊 ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第7回 いじめ(1) ～いじめの現状と課題～</p> <p>第8回 いじめ(2) ～いじめ問題への理解と接近～</p> <p>第9回 非行、問題行動 ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第10回 生徒指導と教育相談 ～臨床心理学的理解に基づく連携のあり方～</p> <p>第11回 発達障害と特別支援教育 ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第12回 生徒のストレスとメンタルヘルス ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第13回 教員のストレスとメンタルヘルス ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第14回 保護者対応 ～現状と課題、臨床心理学的理解と接近～</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。
評価方法 Evaluation	<p>授業への参加意欲・貢献の程度（授業後レポートを含む）： 40%</p> <p>期末試験： 60%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	受講生自身の経験や考えと結びついた知識が得られるよう、主体的な授業参加を期待します。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習心理学／学習心理学I						
担当教員	吉野 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していること気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、行動分析学に軸足を置きながら、行動のメカニズムを探っていく。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習について学ぶ 2. 様々な行動と学習との関わり：系統発生と個体発生 3. オペラント条件づけ1：行動とは何か・行動を説明する 4. オペラント条件づけ2：反応と結果との関係性の学習 5. オペラント条件づけ3：強化と弱化 6. オペラント条件づけ4：反応強化子随伴性の理解 7. オペラント条件づけ5：オペラント条件づけと感情 8. オペラント条件づけ6：消去 9. オペラント条件づけ7：阻止の随伴性とルール支配行動 10. パヴロフ型条件づけ1：刺激と反応の関係性・馴化と鋭敏化 11. パヴロフ型条件づけ2：消去と自然的回復 12. パヴロフ型条件づけ3：情報獲得の基礎過程としてのパヴロフ型条件づけ 13. 学習の応用1：行動療法・応用行動分析 14. 学習の応用2：行動マネジメント 15. まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	原則として教科書に沿って、それぞれのトピックを解説していく。但し、日常生活に深く関わると考えられるものに限定して、適宜教科書に含まれないトピックも解説する。パワーポイントを使用した講義形式を採るが、より理解を深めるために、学生同士で考える時間を設ける。
評価方法 Evaluation	毎時間のリアクションペーパー(各4点×15回 = 60点)、期末レポート(40点)。リアクションペーパーは、授業内容を踏まえて各自で考えたことなどを書いてもらう。単に出席しているかだけでなく、書かれている内容から授業内容を理解できているかどうかを評価して、翌週に返却する。期末レポートでは複数の課題から各自の興味に関わるひとつを選択して提出すること。
履修上の注意 Requirements and policy	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを、積極的に考えてほしい。
教科書 Textbook(s)	指定しない。プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	体系的な理解のため、また予習復習のために、各自で参考書で学んでほしい。 実森正子・中島定彦(2000). 学習の心理：行動のメカニズムを探る サイエンス社 杉山尚子(2005). 行動分析学入門 ―ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書 島宗理(2010). 人は、なぜ約束の時間に遅れるのか 素朴な疑問から考える「行動の原因」 光文社新書
備考 Remarks	人間の行動の成り立ちを考える枠組みを与えてくれるひとつに行動分析学があります。ある意味では一見骸骨のように無味乾燥に思えるかも知れませんが、その骨組みの上にひとりひとりの行動が成立していることのおもしろさを感じてもらえればと思います。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I／久津木 文						
担当教員	久津木 文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学への関心を形にしよう</p> <p>これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介</p> <p>第2回 図書館オリエンテーション</p> <p>第3回 本を読む</p> <p>第4回 性格に関する本を読む（1）</p> <p>第5回 性格に関する本を読む（2）</p> <p>第6回 性格に関する本を読む（3）</p> <p>第7回 読んだ本の発表</p> <p>第8回 性格を調べる</p> <p>第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成</p> <p>第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション</p> <p>第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方</p> <p>第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方</p> <p>第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I／黒崎 優美						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学への関心を形にしよう</p> <p>これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介</p> <p>第2回 図書館オリエンテーション</p> <p>第3回 本を読む</p> <p>第4回 性格に関する本を読む（1）</p> <p>第5回 性格に関する本を読む（2）</p> <p>第6回 性格に関する本を読む（3）</p> <p>第7回 読んだ本の発表</p> <p>第8回 性格を調べる</p> <p>第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成</p> <p>第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション</p> <p>第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方</p> <p>第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方</p> <p>第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I／坂本 真佐哉						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学への関心を形にしよう</p> <p>これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介</p> <p>第2回 図書館オリエンテーション</p> <p>第3回 本を読む</p> <p>第4回 性格に関する本を読む（1）</p> <p>第5回 性格に関する本を読む（2）</p> <p>第6回 性格に関する本を読む（3）</p> <p>第7回 読んだ本の発表</p> <p>第8回 性格を調べる</p> <p>第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成</p> <p>第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション</p> <p>第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方</p> <p>第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方</p> <p>第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I／待田 昌二						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学への関心を形にしよう</p> <p>これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介</p> <p>第2回 図書館オリエンテーション</p> <p>第3回 本を読む</p> <p>第4回 性格に関する本を読む（1）</p> <p>第5回 性格に関する本を読む（2）</p> <p>第6回 性格に関する本を読む（3）</p> <p>第7回 読んだ本の発表</p> <p>第8回 性格を調べる</p> <p>第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成</p> <p>第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション</p> <p>第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方</p> <p>第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方</p> <p>第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／久津木 文						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：自ら調べて分析し、伝えよう</p> <p>心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、自らの調査結果を個人発表します。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 質問紙の作成（1）</p> <p>第2回 質問紙の作成（2）</p> <p>第3回 質問紙の作成（3）</p> <p>第4回 質問紙への回答</p> <p>第5回 データの入力</p> <p>第6回 データ分析：単純集計，基本統計量</p> <p>第7回 データ分析：クロス集計，相関係数</p> <p>第8回 データ分析：グラフの作成</p> <p>第9回 論文作成：問題</p> <p>第10回 論文作成：方法</p> <p>第11回 論文作成：結果</p> <p>第12回 論文作成：考察と引用文献</p> <p>第13回 発表ファイルの作成</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／黒崎 優美						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：自ら調べて分析し、伝えよう</p> <p>心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしなからレポートの書き方について学びます。最後に、自らの調査結果を個人発表します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 質問紙の作成（1）</p> <p>第2回 質問紙の作成（2）</p> <p>第3回 質問紙の作成（3）</p> <p>第4回 質問紙への回答</p> <p>第5回 データの入力</p> <p>第6回 データ分析：単純集計，基本統計量</p> <p>第7回 データ分析：クロス集計，相関係数</p> <p>第8回 データ分析：グラフの作成</p> <p>第9回 論文作成：問題</p> <p>第10回 論文作成：方法</p> <p>第11回 論文作成：結果</p> <p>第12回 論文作成：考察と引用文献</p> <p>第13回 発表ファイルの作成</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／坂本 真佐哉						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：自ら調べて分析し、伝えよう</p> <p>心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、自らの調査結果を個人発表します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 質問紙の作成（1）</p> <p>第2回 質問紙の作成（2）</p> <p>第3回 質問紙の作成（3）</p> <p>第4回 質問紙への回答</p> <p>第5回 データの入力</p> <p>第6回 データ分析：単純集計，基本統計量</p> <p>第7回 データ分析：クロス集計，相関係数</p> <p>第8回 データ分析：グラフの作成</p> <p>第9回 論文作成：問題</p> <p>第10回 論文作成：方法</p> <p>第11回 論文作成：結果</p> <p>第12回 論文作成：考察と引用文献</p> <p>第13回 発表ファイルの作成</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／待田 昌二						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：自ら調べて分析し、伝えよう</p> <p>心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、自らの調査結果を個人発表します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 質問紙の作成（1）</p> <p>第2回 質問紙の作成（2）</p> <p>第3回 質問紙の作成（3）</p> <p>第4回 質問紙への回答</p> <p>第5回 データの入力</p> <p>第6回 データ分析：単純集計，基本統計量</p> <p>第7回 データ分析：クロス集計，相関係数</p> <p>第8回 データ分析：グラフの作成</p> <p>第9回 論文作成：問題</p> <p>第10回 論文作成：方法</p> <p>第11回 論文作成：結果</p> <p>第12回 論文作成：考察と引用文献</p> <p>第13回 発表ファイルの作成</p> <p>第14回 個人発表（1）</p> <p>第15回 個人発表（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席については、厳しく査定する。授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は原則として欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	志澤 康弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この講義では行動観察法を修得することを目的とする。 具体的には、問題の発見、研究計画、分析方法について行動観察に特有な方法を考慮しながら学ぶ。 また、行動観察に限らず、一般に人が苦手とする思考方法、確証バイアス、確率の無視という点についてを少しでも克服する方向に向けることをもう一つの目的とする。
授業計画 Syllabus	行動観察の導入および体験（観察とレポート） 1. 行動研究の概要 2. 映像を見て観察を体験する 3. 映像を見て分析を体験する 行動観察法（講義） 4. 問題の発見から研究の目的へ 5. 研究計画（何をどのように測定するか） 6. 行動の測定法（サンプリングの方式と記録の方式） 7. 行動の測定に関する留意点（信頼性と妥当性他） 8. 分析方法（概論） 9. 分析方法（統計の使用について） 10. 分析方法（行動観察でしばしば用いられる特殊な分析） 11. 学術論文における文章の書き方 13. レポートを振り返りながらの復習 14. 行動観察のポイントと一般社会生活における仮説検証 15. まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義・実習
評価方法 Evaluation	レポート30%。試験70%。 授業に出席し参加することを前提とする（1回の欠席で1点減点とする、授業に参加していない態度を示す場合は評価上の出席とは見なさないことがある）。
履修上の注意 Requirements and policy	実際に計算するので、四則演算が苦手な人は、計算することを承知しておくこと。 統計は基礎から学習するが、十分な時間を割けるわけではない。したがって、統計の基礎は修めていることが望ましい。初めて統計に触れる者は、しっかりと講義を聴いてついてくる必要がある。また、表計算ソフトを使えることを前提とする。 わからないことは早めに質問することが望まれる。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	P. マーティン & P. ベイトソン 1990 行動研究入門 東海大出版会
備考 Remarks	参考図書は、将来行動観察を実際に行う者、また授業で取り上げる以上の情報を知りたい者以外は購入する必要はない。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心の医学／精神医学I						
担当教員	中西 善久						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	精神疾患の代表的なものとして「うつ病」が挙げられ、近年自殺者の数が年間3万人を超え、交通事故死者の数を上回り、その大多数にうつが何らかの形で関与しているとみられ社会問題にまでなっている。この疾患は私たちの身の回りにいくらでもありながら、偏見ともいえる社会通念が先行し、疾患としての実体が知られているとは言いがたい。さらに、その当事者・家族が身をもって体験している苦痛（「病い」の体験そのもの）に至っては、まず一般には知る由もないであろう。この講義では主に「うつ病」の疾患としての正しい理解と、さらには実例も示しながら当事者・家族の「病い」の体験にもできるだけ触れていきたい。
授業計画 Syllabus	第1回 精神医学総論Ⅰ 第2回 精神医学総論Ⅱ 第3回 うつ病総論Ⅰ 第4回 うつ病総論Ⅱ 第5回 うつ病総論Ⅲ 第6回 うつ病総論Ⅳ 第7回 うつ病総論Ⅴ 第8回 うつ病総論Ⅵ 第9回 うつ病総論Ⅶ 第10回 うつ病総論Ⅷ 第11回 うつ病総論Ⅷ 第12回 うつ病各論Ⅰ 第13回 うつ病各論Ⅱ 第14回 うつ病各論Ⅲ 第15回 うつ病各論Ⅳ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	プロジェクターにて図表を供覧する。適宜プリントを配布する。
評価方法 Evaluation	期末レポートにて評価する。出席点15点/レポート85点の比率で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	講義への積極的な参加を期待する。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	「うつ病記」 はやし たけはる著 メディカルレビュー社
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	目的と概要：わけのわからない夢をみたり、誰かとの繋がりを感して満ち足りたり、ぽっかりと穴があいたよう で落ち込んだりと、心のはたらきにはふしぎなことがたくさんあります。心理学とは、そのようなふしぎな心 のはたらきを明らかにしていく学問です。本授業では、これから心理学を学ぼうとする学生を対象に、日常生活 における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心がうみだすさまざまな現象について考え、理解していくこと を目指します。また、心理学を活かした職業や、心理学が社会のなかでどのように活かされているのかについて も紹介します。
授業計画 Syllabus	第1回 心の発見と探求 ～心理学の歴史～ 第2回 心のなかをのぞいてみよう ～心的構造論(1)～ 第3回 夢をみる心 ～心的構造論(2)～ 第4回 心の成長と発達 ～発達心理学(1)～ 第5回 心の成長と発達 ～発達心理学(2)～ 第6回 心の健康と病理 ～臨床心理学(1)～ 第7回 心の痛みを知る ～臨床心理学(2)～ 第8回 心を測定する ～心理査定(1)～ 第9回 心を測定する ～心理査定(2)～ 第10回 心の痛みに向き合う ～心理療法(1)～ 第11回 心の痛みに向き合う ～心理療法(2)～ 第12回 人の間に生きる ～対人関係の心理学(1)～ 第13回 人の間に生きる ～対人関係の心理学(2)～ 第14回 集団の心を知る ～社会心理学～ 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。
評価方法 Evaluation	授業への参加意欲・貢献の程度(授業後レポートを含む)： 40% 期末試験： 60%
履修上の注意 Requirements and policy	受講生自身の経験や考えと結びついた知識が得られるよう、主体的な授業参加を期待します。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	子育て支援に関する基礎知識を幅広い領域から学ぶため、心理学領域に限らず、教育的意義、医学的意義、社会福祉的意義を踏まえて広い知識の習得を目指す。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援とは ②子どもの位置づけの歴史と問題背景 ③子育ての使命と倫理 ④教育的意義について ⑤医学からの子育て支援 子どもの医学：妊娠から乳児期 ⑥医学からの子育て支援 子どもの医学：子どもの主な病気 ⑦臨床心理学からの子育て支援 乳児期から幼児期 ⑧臨床心理学からの子育て支援 幼児期から児童期 ⑨社会福祉からの子育て支援 家庭と地域 ⑩社会福祉からの子育て支援 高齢者の存在意義 ⑪子ども支援 海外に学ぶ ⑫子ども支援 遊びを通じた学び ⑬子育て実技 具体的対処について：子どもの病気 ⑭子育て実技 具体的対処について：子どもの怪我 ⑮総合的解説と到達度確認のテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	板書をしながら講義を行う。学生によるグループ討論などを行うこともある。
評価方法 Evaluation	評価は試験を中心に行うが、平常点は30%とし、欠席やレポート未提出の場合は減点する。
履修上の注意 Requirements and policy	「児童期の臨床心理学」を履修していることが望ましい。
教科書 Textbook(s)	「子育て支援」
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	講義を中心に行っている場合は、私語や居眠りが目立つ場合、退室を求めることがある。一方学生による討論やDVD鑑賞の際などには、好奇心旺盛で積極的な姿勢が望まれる。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は1対1のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に1対複数のコミュニケーション。集団（2～3名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。
授業計画 Syllabus	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-2 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 解決志向の初級会話 第8回 ロールプレイ2-2 解決志向の初級会話 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 複数面接 第11回 複数面接のコツ（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 複数面接 第13回 ロールプレイ3-3 複数面接 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 総括 レポート作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	すべて演習形式で行う
評価方法 Evaluation	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象となります）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回決まったグループにて演習形式で行うので、遅刻・欠席をするとグループのメンバーに迷惑がかかります。遅刻・欠席については減点の対象となります。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	坂本真佐哉、和田憲明、東豊（2001） 「心理療法テクニックのススメ」 金子書房 ISBN 4-7608-2590-8
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は1対1のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に1対複数のコミュニケーション。集団（2～3名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。						
授業計画 Syllabus	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-2 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 解決志向の初級会話 第8回 ロールプレイ2-2 解決志向の初級会話 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 複数面接 第11回 複数面接のコツ（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 複数面接 第13回 ロールプレイ3-3 複数面接 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 総括 レポート作成						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	すべて演習形式で行う						
評価方法 Evaluation	平常点60%（遅刻・欠席は、減点の対象となります）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%						
履修上の注意 Requirements and policy	毎回決まったグループにて演習形式で行うので、遅刻・欠席をするとグループのメンバーに迷惑がかかります。遅刻・欠席は、減点の対象となります。						
教科書 Textbook(s)	なし						
参考書 Reference(s)	坂本真佐哉、和田憲明、東豊（2001） 「心理療法テクニックのススメ」 金子書房 ISBN 4-7608-2590-8						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	東 豊						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は1対1のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に1対複数のコミュニケーション。集団（2～3名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。
授業計画 Syllabus	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-2 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 解決志向の初級会話 第8回 ロールプレイ2-2 解決志向の初級会話 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 複数面接 第11回 複数面接のコツ（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 複数面接 第13回 ロールプレイ3-3 複数面接 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 総括 レポート作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	すべて演習形式で行う
評価方法 Evaluation	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象となります）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回決まったグループにて演習形式で行うので、遅刻・欠席をするとグループのメンバーに迷惑がかかります。遅刻・欠席については特に厳しく指導します。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	東 豊						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は1対1のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に1対複数のコミュニケーション。集団（2～3名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。
授業計画 Syllabus	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-2 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 解決志向の初級会話 第8回 ロールプレイ2-2 解決志向の初級会話 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 複数面接 第11回 複数面接のコツ（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 複数面接 第13回 ロールプレイ3-3 複数面接 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 総括 レポート作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	すべて演習形式で行う
評価方法 Evaluation	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象となります）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回決まったグループにて演習形式で行うので、遅刻・欠席をするとグループのメンバーに迷惑がかかります。遅刻・欠席については特に厳しく指導します。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉 征慶						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	働く人々を対象にしたカウンセリングの実際を学ぶこと、これが授業の目的です。 講師は、民間企業に勤務している産業カウンセラーですので、現場での仕事内容(社員教育とカウンセリング事例対応など)を紹介します。 また実際にカウンセリングを行う時の基本的な事柄について体験学習し、ビデオ鑑賞して理解を深めます。 また、背景知識として、キャリアカウンセリング、労働衛生行政の歴史や法規にも触れます。
授業計画 Syllabus	第1回: ようこそ! 産業カウンセリング論へ 授業のガイダンス等 第2回: メンタルヘルス社員教育の実際① (ストレス対策) 第3回: メンタルヘルス社員教育の実際② (働きがい/生きがい探求のためのツール) 第4回: いよいよ事例紹介! メンタルヘルス事例対応の実際 第5回: 面接相談の基本を学ぶ① 聴けてますか?相手のお話 第6回: 面接相談の基本を学ぶ② 人の話の三つの要素 第7回: 面接相談の基本を学ぶ③ 人の話の三つの要素 練習を続けよう 第8回: 面接相談の基本を学ぶ④ 感情に触れるフィードバック 第9回: 面接相談の基本を学ぶ⑤ 感情に触れるフィードバック 第10回: 面接場面のビデオ鑑賞 第11回: 背景知識を学ぼう① キャリアについて①自分の持ち味を活かす 「適材適所」という発想 第12回: 背景知識を学ぼう② キャリアについて②「転機」のおとずれ 「ピンチ」を「チャンス」に 第13回: 背景知識を学ぼう③ キャリアについて③人生は「計画性」と「偶然性」のミックスジュース 第14回: 背景知識を学ぼう④ 労働衛生行政の歴史と法規 人に歴史あり、制度・ルールに事件あり 第15回: まとめ、質疑応答、試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	一方的な情報提供(講義)ではなく、体験学習をねらいとしたワークを授業に取り入れます。
評価方法 Evaluation	出席(遅刻の有無)重視。課題として、参考図書のブックレポートの提出。試験の成績を加味します。 評価を数式で敢えて表現すれば、下記の通りです。 成績100=出席率・授業態度(40)+課題(ブックレポート)(30)+試験(30)
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻されるとワークに差支えます。遅刻厳禁とします。 遅刻せずに出席できるよう意欲と体調を勧奨して、授業選択して下さい。 特に就活を念頭に置いた学生は、出席日数の不都合のないように注意して下さい。
教科書 Textbook(s)	配布資料がテキストになります。また参考図書の一読が、課題(ブックレポート)に取り組むために、必要になります。購入も検討してみてください。ご自分の進路選択に関しても役に立つ一冊になると思います。
参考書 Reference(s)	新刊キャリアの心理学 渡部三枝子編(ナカニシヤ書店) これからの職場のメンタルヘルス 藤井久和(創元社) フランクルを学ぶ人のために 山田邦男編(世界思想社)
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学A／社会心理学I						
担当教員	石井 敬子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会心理学とは、社会的存在としての人間の心の性質を研究する学問である。具体的には、人間の心が社会的環境の中でどのように働くのかを客観的に記述し、なぜ心がそのような働きをするのかを説明することを目的としている。この授業では、社会心理学の主要な領域である自己、社会的認知、態度、感情に注目し、さまざまな研究例を通じて人間の社会行動を理解することを目指す。
授業計画 Syllabus	第1回 イン트로ダクション・社会心理学とは？ 第2回 自己概念・アイデンティティ 第3回 自己評価 第4回 自己呈示と動機づけ 第5回 自己と文化 第6回 印象形成 第7回 対人認知 第8回 帰属 第9回 推論のエラーとバイアス 第10回 態度と認知の一貫性 第11回 説得的コミュニケーション 第12回 感情の生起 第13回 感情と情報処理 第14回 前期授業の補足と質疑応答 第15回 前期試験と後期授業の説明
参照URL Referance URL (s)	http://www2.kobe-u.ac.jp/~ishiik/shoin/
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回の授業での小テスト（40%）、期末試験（60%）
履修上の注意 Requirements and policy	・授業の最初に、前回の授業の復習とその日の授業の予習をかねた小テストを実施するので、必ず教科書の出題範囲に目を通しておくこと。 ・座席指定
教科書 Textbook (s)	池上知子・遠藤由美（共著）グラフィック社会心理学第2版（サイエンス社）
参考書 Reference (s)	山岸俊男（編）社会心理学キーワード（有斐閣）
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学B/社会心理学II						
担当教員	石井 敬子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会心理学とは、社会的存在としての人間の心の性質を研究する学問である。具体的には、人間の心が社会的環境の中でどのように働くのかを客観的に記述し、なぜ心がそのような働きをするのかを説明することを目的としている。この授業では、前期の社会心理学A/社会心理学IIに引き続き、主に人は他者や世界とどう関わりながら生きているのかに注目し、さまざまな研究例を通じて人間の社会行動を理解することを目指す。
授業計画 Syllabus	第1回 自己意識と行動 第2回 援助行動 第3回 攻撃と社会的排斥 第4回 対人魅力・人間関係の成立 第5回 人間関係の維持と崩壊 第6回 集団による問題解決と意思決定 第7回 社会的ジレンマ 第8回 社会的アイデンティティと集団間差別 第9回 幸福感とストレス 第10回 ソーシャルサポート 第11回 文化心理学(1)：自己と感情 第12回 文化心理学(2)：認知 第13回 文化心理学(3)：文化内比較 第14回 後期授業の補足と質疑応答 第15回 後期試験
参照URL Referance URL (s)	http://www2.kobe-u.ac.jp/~ishiik/shoin/
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回の授業での小テスト(40%)、期末試験(60%)
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に、前回の授業の復習とその日の授業の予習をかねた小テストを実施するので、必ず教科書の出題範囲に目を通しておくこと。 ・座席指定
教科書 Textbook (s)	池上知子・遠藤由美(共著) グラフィック社会心理学第2版(サイエンス社)
参考書 Reference (s)	山岸俊男(編) 社会心理学キーワード(有斐閣)
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法／社会心理学研究法						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学の調査法の一つとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法までについて講義し、実際にサンプルデータの分析を各自行う。 **必ず第一回目の授業までに大学のパソコンから受信が確認できるメールアドレスを入手しておくこと（大学のメールアドレスが望ましいがhotmailなどでもよい。携帯メールは不可）。
授業計画 Syllabus	1質問紙調査とは何か 2調査目的の明確化と仮説モデルの作成 3先行研究の文献検索 4調査方法の選定・サンプリング 5質問紙の作成（質問文、回答方法、和－ディング） 6尺度構成 7データ入力（コード化、無効票の処理、データのクリーニング） 8自由回答のカテゴリー化、再コード化 9単純集計（度数分布、基本統計量）、尺度得点の作成 10クロス集計とカイ二乗検定、相関 11推定と検定 12平均値の差の検定（t検定と分散分析） 13重回帰分析 14結果の解釈、考察、仮説モデルとの照合 15報告書の作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義方式 個別作業
評価方法 Evaluation	平常点（授業態度及び課題への取り組み等）40%、提出課題60%
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁 私語など授業態度が悪いとみなされた場合は減点する。 履修制限40名 遅刻は欠席となる
教科書 Textbook(s)	適宜紹介
参考書 Reference(s)	適宜紹介
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学／消費社会の心理						
担当教員	秋山 学						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	賢い消費者を目指そう 今日、あまた溢れる商品やサービスから取捨選択をし、購買そして消費することなくして、日々の暮らしは成り立たない時代に私たちは生きています。同時に、環境問題に代表されるように、欲望の赴くままに欲しいものを手に入れ、消費することの善し悪しが消費者に対しても問われている時代でもあります。本講義では、受講生自身が大量消費社会で生きる消費者であることを自覚し、自らの消費行動の特徴や問題点を把握することを目指しています。そのため、心理学や行動科学の研究成果をもとに、消費者の購買行動の特徴や法則性に関して学ぶとともに、我々の消費行動を喚起するべく企業などが取り組むマーケティング戦略について学んでいきます。授業においては、自らのお金の使い方、時間の使い方を振り返り、自らの消費行動の背景や、自らの商品選択のプロセス自体に対して、注意を向けて欲しいと願っています。
授業計画 Syllabus	第1回：消費者行動とは？ 第2回：店舗内の消費者行動1-計画購買vs非計画購買 第3回：店舗内の消費者行動2-店舗内消費者行動観察の実際 第4回：顧客とのコミュニケーション 第5回：ブランドの心理的機能1-ブランドとは何か 第6回：ブランドの心理的機能2-ブランドの心理的構成要素とブランドイメージ 第7回：口コミと消費者行動1-消費者行動における情報の伝播と準拠集団 第8回：口コミと消費者行動2-準拠集団の影響 第9回：悪質商法と戦うー説得的コミュニケーションを考える 第10回：比較広告を通して広告を考える 第11回：TVCMの“テンポ”と注目 第12回：サブリミナル広告の問題点 第13回：消費者の価格判断1-Euro illusionと心理的収支決算 第14回：消費者の価格判断2-心理的サイフと近視眼的判断 第15回：質疑応答と試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	定期試験(75%)、小レポートおよび平常点(欠席により減点)(25%)
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	シラバスに掲載したもの以外も授業中に紹介します。 杉本徹雄 編著「消費者理解のための心理学」(福村出版)：特に重要 ISBN:4571250258 田中洋 著「消費者行動論体系」(中央経済社) ISBN:4502662305 竹村和久 編著「消費行動の社会心理学」(北大路書房) ISBN:4762821977 パコ・アンダーヒル 著 鈴木主税(訳)「なぜこの店で買ってしまうのかーショッピングの科学」(早川書房) ISBN:4152083352 シーナ・アイエンガー著 櫻井祐子(訳)「選択の科学」(文藝春秋) ISBN:4163733507 ダン・アリエリー著「予想通りに不合理[増補版]」(早川書房)

参考書 Reference(s)	ISBN: 4152091665
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>トラウマや生と死に関するテーマ、およびその関連領域についての内外の文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、指定された本の内容を紹介し、参加者全員で議論を深める。具体的には、以下のような内容を扱う予定である。</p> <p>犯罪被害者・遺族の心理とその支援、病名告知、ターミナルケア、末期患者の心理、自殺、生命倫理など。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：文献講読と討議 (1) 第3回：文献講読と討議 (2) 第4回：文献講読と討議 (3) 第5回：文献講読と討議 (4) 第6回：文献講読と討議 (5) 第7回：文献講読と討議 (6) 第8回：文献講読と討議 (7) 第9回：文献講読と討議 (8) 第10回：文献講読と討議 (9) 第11回：文献講読と討議 (10) 第12回：文献講読と討議 (11) 第13回：文献講読と討議 (12) 第14回：文献講読と討議 (13) 第15回：文献講読と討議 (14)</p>
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表内容や討論への参加 (20%)、レポート (20%)、平常点 (60%) などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が求められる。無断欠席は厳禁。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	久津木 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	乳幼児期の社会性及びコミュニケーションの発達を中心とした分野の中で興味をもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、自己紹介、発表割り当て 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション(文献)4 8. 個人発表とディスカッション(文献)5 9. 個人発表とディスカッション(文献)6 10. 興味テーマ発表とディスカッション1 11. 興味テーマの発表とディスカッション2 12. 興味テーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション(研究計画) 14. 個人発表とディスカッション(研究計画) 15. 夏季休暇中の課題
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール方式
評価方法 Evaluation	授業態度(20%)、課題への取り組み(80%)
履修上の注意 Requirements and policy	発表担当者はゼミ人数分の資料(レジュメ)を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていてもディスカッションに必ず参加すること(必ず1授業1回はコメント・質問をすること)。
教科書 Textbook(s)	適宜紹介する
参考書 Reference(s)	適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方・書き方を習得することを目的とします。</p> <p>概要：対人関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行います。活動は基本的に数名のグループで行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介、グルーピング</p> <p>第2回 対人関係への接近法(1) ～VAT(原子価査定テスト)の実施～</p> <p>第3回 対人関係への接近法(2) ～VATの採点～</p> <p>第4回 対人関係への接近法(3) ～VATの解釈～</p> <p>第5回 文献検索(精神分析、対象関係論領域)</p> <p>第6回 資料作成</p> <p>第7回 発表と全体討議(1)</p> <p>第8回 発表と全体討議(2)</p> <p>第9回 発表と全体討議(3)</p> <p>第10回 テーマ設定</p> <p>第11回 文献検索(テーマ領域)、資料作成</p> <p>第12回 発表と全体討議(1)</p> <p>第13回 発表と全体討議(2)</p> <p>第14回 発表と全体討議(3)</p> <p>第15回 今後の研究の進め方と課題</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミ形式。
評価方法 Evaluation	授業やグループ活動への参加・貢献度を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	授業の性質上、欠席は原則不可とします。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	「目に見えない人と人との繋がりをはかるー原子価査定テスト(VAT)の手引き」ハフシ・メッド著 ナカニシヤ出版 2010.
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献（前半は書籍、後半は論文）を中心としてお互いに紹介し、討論をすすめていく。臨床心理学領域に関する学術論文の形式、データの読み方などについて理解を深める。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション テーマの決め方と研究の進め方 第2回：臨床心理学領域の研究領域と資料収集の方法 第3回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（1） 第4回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（2） 第5回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（3） 第6回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（4） 第7回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（5） 第8回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（6） 第9回：学術論文に関する文献研究と発表（1） 第10回：学術論文に関する文献研究と発表（2） 第11回：学術論文に関する文献研究と発表（3） 第12回：学術論文に関する文献研究と発表（4） 第13回：学術論文に関する文献研究と発表（5） 第14回：学術論文に関する文献研究と発表（6） 第15回：授業の総括と今後の課題について
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習形式とし、すべての授業で討論を行う
評価方法 Evaluation	平常点60%、発表40%
履修上の注意 Requirements and policy	必ず出席し、積極的に発言すること
教科書 Textbook (s)	なし
参考書 Reference (s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	寺井 さち子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学の領域の、特に子どもや思春期青年期に関する考えを深めるため、学生自らが興味関心を抱く論文や本を読み進める。分担して発表の担当に当たった者は必ずレジメを提出しその内容を解説するものとする。そしてそうした領域に関する知見を皆で深め合うなかで、次第に4年生で作成する卒業研究への準備を整えていく機会とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「心理学演習A」の科目として持つ特徴など全般的なオリエンテーションを行う。 2. 各自が来年度に向けて準備を進めたい分野について話し合う。 3. 図書館の使い方、特に論文の検索方法などについて学ぶ。 4. 図書館に常設されている心理学関連の書籍に馴染む。 5. 心理学関連の学術雑誌に馴染む。 6. 学術雑誌から子どもに関する論文を選びだしまとめる練習を行う。 7. 学術雑誌から思春期に関する論文を選び出しまとめる練習を行う。 8. 学術雑誌から青年期に関する論文を選び出しまとめる練習を行う。 9. アタッチメント理論について学習を深め、関連する書物から発表を行う。 10. 最近のアタッチメント理論について学習を深めるため、関連する書物から発表を行う。 11. 発達障害（幼児期）について考えを深める。 12. 発達障害（児童期・思春期）について考えを深める。 13. いじめについて考えを深める。 14. 子どもの自殺について考えを深める。 15. 前期の学習について振り返る。
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	学生が主体的に研究を進めるゼミ形式をとる。教員は各学生の発表を支えて、より発展的にその内容を深められるよう
評価方法 Evaluation	発表した内容、レジメのまとめかた、考えを深めようとする姿勢などから総合的に評価する。 平常点を50%とし、欠席や発表回数が不足する場合は減点します。
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook (s)	なし
参考書 Reference (s)	なし
備考 Remarks	ゼミであるので、必ず出席する姿勢で臨むこと。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：事象の臨床心理学的理解</p> <p>受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行う。その過程で、臨床心理学的観点に基づいた現象の理解、および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー演習の進め方について</p> <p>#02：心理学論文の形式</p> <p>#03：文献の種類</p> <p>#04：文献検索の方法</p> <p>#05：受講生による発表と討論ー1周目の①</p> <p>#06：受講生による発表と討論ー1周目の②</p> <p>#07：受講生による発表と討論ー1周目の③</p> <p>#08：受講生による発表と討論ー1周目の④</p> <p>#09：受講生による発表と討論ー1周目の⑤</p> <p>#10：受講生による発表と討論ー2周目の①</p> <p>#11：受講生による発表と討論ー2周目の②</p> <p>#12：受講生による発表と討論ー2周目の③</p> <p>#13：受講生による発表と討論ー2周目の④</p> <p>#14：受講生による発表と討論ー2周目の⑤</p> <p>#15：まとめ、文献リストの提出</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表（60%）や討論への参加態度（40%）により評価を行う。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。</p> <p>なお、相応の理由なく欠席することは認めない。</p>
教科書 Textbook(s)	指定しない。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	東 豊						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学に関することで各々の興味あるテーマについて理解を深める。各々の選んだテーマに関する論文を精読し、発表する。その上で講師による関連講義とディスカッションを行う。
授業計画 Syllabus	第1回 ゼミメンバー自己紹介とゼミ運営の説明 第2回～15回 各々が関心のある臨床心理学領域の論文の発表とディスカッション（各回2名）及び関連講義
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	受講者による発表及びディスカッションが中心となる
評価方法 Evaluation	平常点（50%）と発表内容（50%）
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	廣川 空美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、ライフスタイル、精神的健康、職業意識、社会問題（女性、環境、福祉など）などの分野からテーマを選定することが望ましい。
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション 発表割り当て 第2回 個人発表と討論1 (テーマ案) 第3回 個人発表と討論2 (テーマ案) 第4回 個人発表と討論3 (テーマ案) 第5回 文献(著書)収集1 第6回 文献(著書)収集2 第7回 文献(著書)収集3 第8回 個人発表と討論4 (著書のまとめ) 第9回 個人発表と討論5 (著書のまとめ) 第10回 個人発表と討論6 (著書のまとめ) 第11回 仮説モデルの作成1 第12回 仮説モデルの作成2 第13回 仮説モデルの作成3 第14回 個人発表と討論7 (仮説モデル) 第15回 夏季休暇中の課題
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール形式
評価方法 Evaluation	授業態度、出席状況、課題への取り組みなど
履修上の注意 Requirements and policy	発表の際には、ゼミの人数分のレジュメを用意すること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学の専門的な知識の集め方、研究方法について学ぶとともに、自身の研究テーマを見つけることを目的とした授業です。進化心理学、非言語コミュニケーションなどに関する本や論文を読み、専門的な本や研究論文における議論の進め方、データ収集と処理の方法、図表の示し方などを、論文を精読しながら具体的に学んでいきます。そして、心理学の本と研究論文から各自の関心に近いものを選び発表・議論します。また、パワーポイントによる発表の技術も習得します。
授業計画 Syllabus	第1回 授業の進め方と文献の紹介 第2回 心理学の本を読む1 第3回 心理学の本を読む2 第4回 心理学の本を読む3 第5回 パワーポイントによる発表方法の習得 第6回 受講生による本の紹介1 第7回 受講生による本の紹介2 第8回 受講生による本の紹介3 第9回 研究論文の読み方と紹介1 第10回 研究論文の読み方と紹介2 第12回 受講生による研究論文の紹介1 第13回 受講生による研究論文の紹介2 第14回 受講生による研究論文の紹介3 第15回 受講生による研究論文の紹介4
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業への取り組みなど平常点50%、発表50%
履修上の注意 Requirements and policy	休まず授業に出席して、自ら関心を持って取り組むことが必要です。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	トラウマや生と死に関するテーマ、およびその関連領域についての内外の文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、各自で選んだ論文の内容を紹介し、参加者全員で議論を深める。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回：文献研究に関する発表と討論 (1) 第2回：文献研究に関する発表と討論 (2) 第3回：文献研究に関する発表と討論 (3) 第4回：文献研究に関する発表と討論 (4) 第5回：文献研究に関する発表と討論 (5) 第6回：文献研究に関する発表と討論 (6) 第7回：文献研究に関する発表と討論 (7) 第8回：文献研究に関する発表と討論 (8) 第9回：文献研究に関する発表と討論 (9) 第10回：文献研究に関する発表と討論 (10) 第11回：文献研究に関する発表と討論 (11) 第12回：文献研究に関する発表と討論 (12) 第13回：卒業研究計画に関する発表と討論 (1) 第14回：卒業研究計画に関する発表と討論 (2) 第15回：卒業研究計画に関する発表と討論 (3)
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表内容や討論への参加 (20%)、レポート (20%)、平常点 (60%) などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が求められる。無断欠席は厳禁。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	久津木 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学演習A（前期）から引き続き、個別のテーマに沿って文献を読み、討議を重ね、考察を深めるのが目的である。卒論につながっていくような興味やテーマを得ることが重要である。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション（文献）4 8. 個人発表とディスカッション（文献）5 9. 個人発表とディスカッション（文献）6 10. 興味のテーマ発表とディスカッション1 11. 興味のテーマの発表とディスカッション2 12. 興味のテーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション（研究計画） 14. 個人発表とディスカッション（研究計画） 15. 個人発表とディスカッション（研究計画）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール方式
評価方法 Evaluation	授業態度（20%）、課題への取り組み（80%）
履修上の注意 Requirements and policy	発表担当者はゼミ人数分の資料（レジュメ）を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていなくともディスカッションに必ず参加すること（必ず1授業1回はコメント・質問をすること）。 未定であるが、保育所訪問等、学外での活動がある可能性あり（交通費は自己負担となる）。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	プリントを配布する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：心理学演習Aに引き続き、次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを確定し、具体的な研究計画を作成することを目的とします。</p> <p>概要：対人関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行います。活動は基本的に数名のグループで行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 研究計画の立て方について</p> <p>第2回 研究テーマの確定</p> <p>第3回 文献検索（テーマ領域）</p> <p>第4回 資料作成（テーマ領域の研究レビュー）</p> <p>第5回 発表と全体討議(1)</p> <p>第6回 発表と全体討議(2)</p> <p>第7回 発表と全体討議(3)</p> <p>第8回 統計資料の読み方について</p> <p>第9回 研究方法について</p> <p>第10回 研究方法の確定</p> <p>第11回 研究計画作成</p> <p>第12回 発表と全体討議(1)</p> <p>第13回 発表と全体討議(2)</p> <p>第14回 発表と全体討議(3)</p> <p>第15回 今後の研究の進め方について</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミ形式。
評価方法 Evaluation	授業やグループ活動への参加・貢献度を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	授業の性質上、欠席は原則不可とします。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献（特に論文）を中心としてお互いに紹介し、討論をすすめていく形で行う。臨床心理学分野における学術論文の読み方、データの解釈などについて学びながら興味に従ってテーマを絞り、後半は卒業論文のための研究計画を立てる。
授業計画 Syllabus	第1回：学術論文の検索について（1） 第2回：学術論文の検索について（2） 第3回：学術論文の検索について（3） 第4回：学術論文のデータ解釈について（1） 第5回：学術論文のデータ解釈について（2） 第6回：学術論文のデータ解釈について（3） 第7回：学術論文のデータ解釈について（4） 第8回：学術論文のデータ解釈について（5） 第9回：調査／実験の方法論と倫理（1） 第10回：調査／実験の方法論と倫理（2） 第11回：調査／実験の方法論と倫理（3） 第12回：研究計画の立て方 第13回：研究計画に関する討論（1） 第14回：研究計画に関する討論（2） 第15回：研究計画に関する討論（3）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式とし、すべての授業で討論を行う
評価方法 Evaluation	出席60%、発表40%
履修上の注意 Requirements and policy	必ず出席し、積極的に発言すること
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>乳児期から思春期の子どもについての心理学的理解を深める。 乳児期から思春期青年期までの子どもを主たる対象とし、発達心理学を含めた全般的な子ども理解を行う。さらに精神分析的発達論、子どもの問題行動や症状が示す意味・心理的メカニズムについての臨床的学びへと進む。具体的には①発達障害、②情緒障害、③不登校や引きこもり、④その他子どもの心理的問題を取り上げる。 そうした1年間の授業の流れを踏まえ、各学生は自らそれぞれ興味ある書籍や論文を選んで勉強を進め、発表担当日には要約のレジメを用意して口頭発表を行う。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>15. 情緒障害について学習・発表。 16. 現代の子どもの状況①（乳児期）について学習・発表。 17. 現代の子どもの状況②（幼児期）について学習・発表。 18. 現代の子どもの状況③（学童期）について学習・発表。 19. 現代の思春期・青年期の状況①について学習・発表。 20. 現代の思春期・青年期の状況②について学習・発表。 21. 卒論取組みの準備。①テーマ探し。 22. 卒論取組みの準備。②テーマについて討議。 23. 卒論取組みの準備。③テーマについて発表。 24. 卒論テーマに添って学習を深める。 25. 卒論テーマに添って学習を深める。 26. 卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 27. 卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 28. 次年度に向けて計画書を試案。 29. 次年度に向けて研究計画を発表。 30. 卒論研究計画書の作成・提出。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	学生が自発的に文献を選びレジメに纏めてきたものを発表する演習の形式を中心とする。
評価方法 Evaluation	平常点を50%とし、欠席あるいは発表回数の不足がある場合は減点する。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回出席を原則とする。欠席の場合はレポート等の宿題を課する場合がある。
教科書 Textbook(s)	特定の教科書は使用しない。
参考書 Reference(s)	必要に応じて授業中に紹介するが、学生各自が積極的に興味ある書籍を見つけて学習することが前提となる。
備考 Remarks	演習であるので、学生の積極性や学習意欲を期待する。ゼミであるため全出席を目標に置くこと。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：卒業研究のテーマ決定</p> <p>心理学演習Aに引き続き、受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行うことで、テーマについての理解をさらに深める。 その上で、最終的に卒業論文のテーマを決定することを目的とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：演習の進め方についてのオリエンテーション</p> <p>#02：受講生による発表と討論－1周目の①</p> <p>#03：受講生による発表と討論－1周目の②</p> <p>#04：受講生による発表と討論－1周目の③</p> <p>#05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション</p> <p>#06：受講生による発表と討論－2周目の①</p> <p>#07：受講生による発表と討論－2周目の②</p> <p>#08：受講生による発表と討論－2周目の③</p> <p>#09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション</p> <p>#10：受講生による発表と討論－3周目の①</p> <p>#11：受講生による発表と討論－3周目の②</p> <p>#12：受講生による発表と討論－3周目の③</p> <p>#13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション</p> <p>#14：卒業研究計画書と文献リストの提出①</p> <p>#15：卒業研究計画書と文献リストの提出②</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表（60%）や討論への参加態度（40%）により評価を行う。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。 なお、相応の理由なく欠席することは認めない。</p>
教科書 Textbook(s)	指定しない。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	東 豊						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学領域で各自関心のあるテーマに沿って研究論文や書籍を精読・発表し、全体でディスカッションを行い、講師から解説を加える。徐々に卒業研究のテーマを絞り込んで行く。						
授業計画 Syllabus	第1回 卒業論文のテーマを選ぶ① 個人発表 第2回 卒業論文のテーマを選ぶ② 個人発表 第3回 卒業論文のテーマを選ぶ③ 個人発表 第4回 卒業論文のテーマを選ぶ④ 個人発表 第5回 卒業論文のテーマを選ぶ⑤ 個人発表 第6回 卒業論文のテーマを選ぶ⑥ 個人発表 第7回 卒業論文の書き方① 「問題」の立て方 第8回 卒業論文の書き方② 「方法」の組み立て方 第9回 卒業論文の書き方③ 「結果」の処理の方法 第10回 卒業論文の書き方④ 「考察」のポイント 第11回 卒業論文計画書の報告① 個人発表 第12回 卒業論文計画書の報告② 個人発表 第13回 卒業論文計画書の報告③ 個人発表 第14回 卒業論文計画書の報告④ 個人発表 第15回 卒業論文計画書の報告⑤ 個人発表						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	平常点 100%						
履修上の注意 Requirements and policy							
教科書 Textbook(s)	なし						
参考書 Reference(s)	適宜紹介する						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	廣川 空美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会心理学の最近の研究を、「心理学研究」「社会心理学研究」「実験社会心理学」などの雑誌論文の中から選び、まとめ、発表する。
授業計画 Syllabus	第1回 個人発表と討論8 (夏季休暇中の課題の提出) 第2回 文献(先行研究論文)収集1 第3回 文献(先行研究論文)収集2 第4回 文献(先行研究論文)収集3 第5回 個人発表と討論9 (先行研究のまとめ) 第6回 個人発表と討論10 (先行研究のまとめ) 第7回 個人発表と討論11 (先行研究のまとめ) 第8回 仮説モデルの修正1 第9回 仮説モデルの修正2 第10回 研究方法の比較検討1 第11回 研究方法の比較検討2 第12回 個人発表と討論12 (修正モデルと研究方法) 第13回 研究計画書の作成14 第14回 研究計画書の作成15 第15回 個人発表と討論13 (研究計画のまとめ)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール形式
評価方法 Evaluation	授業中の発表50%、議論への貢献度50%
履修上の注意 Requirements and policy	発表の際には、ゼミ人数分のレジユメを用意すること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学演習Aに引き続き、心理学の専門的な知識の集め方、研究方法について学ぶとともに、自身の研究テーマを見つけることを目的とした授業です。各受講生が自身の研究テーマを決定し、研究方法を考え、授業で発表して議論していく中で、研究テーマと方法を明確にしていき、予備調査を行ってデータを集めます。そして、データの分析方法、結果の示し方を習得して、調査結果を発表するということを体験します。
授業計画 Syllabus	第1回 研究テーマについて考える 第2回 研究テーマの発表 第3回 研究方法について考える 第4回 研究方法の立案 第5回 データの収集 第6回 データの入力 第7回 データの集計 第8回 データの分析 第9回 結果の図や表での表示 第10回 結果の書き方 第11回 考察の書き方 第12回 調査結果の発表（1） 第13回 調査結果の発表（2） 第14回 調査結果の発表（3） 第15回 調査結果の発表（4）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業中での発表など平常点60%と期末レポート40%
履修上の注意 Requirements and policy	休まず授業に出席して、自ら関心を持って取り組むことが必要です。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の概要</p> <p>心とは何か考える時最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識だろう。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界がある。私たちの心は意識していないところで様々なことをしている。それゆえ、心について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学ぶ。</p> <p>授業の目的</p> <p>(1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。</p>
授業計画 Syllabus	第1回 心理学とは何か 第2回 科学としての心理学 第3回 心の発達 第4回 感覚と知覚 第5回 学習 第6回 思考と言語 第7回 知能・記憶 第8回 脳と心の働き 第9回 動機づけ 第10回 認知と感情 第11回 記憶・性格 第12回 ストレスと健康 第13回 社会と行動 第14回 精神障害 第15回 心理療法 「期末テスト」
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントによる講義形式
評価方法 Evaluation	リアクションペーパー20%、予習レポート30%、期末テスト50%
履修上の注意 Requirements and policy	心理学の基礎知識を習得するための導入授業です。心理学的ものの見方考え方を学んでください。積極的なリアクションペーパーと予習レポートの提出を望みます。
教科書 Textbook(s)	特に指定しない（プリントを配布します）。
参考書 Reference(s)	心理学、鹿取廣人/杉本敏夫 [編]、東京大学出版 ISBN4-13-012029-8 心の科学、生和秀敏 [編]、北大路書房、ISBN4-7628-2311-2
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A／久津木文・日置孝一・小宮あすか						
担当教員	久津木文・日置孝一・小宮あすか						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解 基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。複数教員共同担当のオムニバス方式 第3回から第14回の授業内容はクラスによって順序が異なります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーションと実験 第2回 実験の解説とレポートの書き方 第3回 同調行動 第4回 集団意思決定、 第5回 ストループ 第6回 日常記憶 第7回 系留効果 第8回 触二点閾の測定 第9回 記憶の自由再生における系列位置効果 第10回 オペラント条件付け 第11回 時間評価 第12回 要求水準 第13回 SD法1：質問紙の作成とデータ集め 第14回 SD法2：データのまとめ方 第15回 まとめと反省</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	授業への取り組み50％&レポート課題の評価50％
履修上の注意 Requirements and policy	3, 4限続きの授業につき、最初から出席すること開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。欠席3回目で単位取得資格を失うので留意すること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A／久津木文・日置孝一・小宮あすか						
担当教員	久津木文・日置孝一・小宮あすか						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解 基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。複数教員共同担当のオムニバス方式 第3回から第14回の授業内容はクラスによって順序が異なります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーションと実験 第2回 実験の解説とレポートの書き方 第3回 同調行動 第4回 集団意思決定、 第5回 ストループ 第6回 日常記憶 第7回 系留効果 第8回 触二点閾の測定 第9回 記憶の自由再生における系列位置効果 第10回 オペラント条件付け 第11回 時間評価 第12回 要求水準 第13回 SD法1：質問紙の作成とデータ集め 第14回 SD法2：データのまとめ方 第15回 まとめと反省</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	授業への取り組み50％&レポート課題の評価50％
履修上の注意 Requirements and policy	3, 4限続きの授業につき、最初から出席すること開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。欠席3回目で単位取得資格を失うので留意すること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A／久津木文・日置孝一・小宮あすか						
担当教員	久津木文・日置孝一・小宮あすか						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解 基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。複数教員共同担当のオムニバス方式 第3回から第14回の授業内容はクラスによって順序が異なります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーションと実験 第2回 実験の解説とレポートの書き方 第3回 同調行動 第4回 集団意思決定、 第5回 ストループ 第6回 日常記憶 第7回 系留効果 第8回 触二点閾の測定 第9回 記憶の自由再生における系列位置効果 第10回 オペラント条件付け 第11回 時間評価 第12回 要求水準 第13回 SD法1：質問紙の作成とデータ集め 第14回 SD法2：データのまとめ方 第15回 まとめと反省</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	授業への取り組み50％&レポート課題の評価50％
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3, 4限続きの授業につき、最初から出席すること開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失うので留意すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B／日置孝一・小宮あすか・担当者未定						
担当教員	日置孝一・小宮あすか・担当者未定						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解 基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。複数教員共同担当のオムニバス方式</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 パーソナルスペース 第2回 質問紙①（パーソナリティ） 第3回 質問紙②（仮想場面法） 第4回 ミュラー・リアー錯視 第5回 ミュラー・リアー錯視つづき 第6回 両側性転移 第7回 印象形成 第8回 情報の伝達と変容 第9回 Implicit association test 第10回 自由実験 課題作成1 第11回 自由実験 課題作成2 第12回 自由実験 実験実施&データ分析 第13回 自由実験 データ分析 第14回 自由実験 結果発表会1 第15回 自由実験 結果発表会2</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	授業への取り組み50%&レポート課題と最終課題の内容50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3, 4限続きの授業につき、最初から出席すること開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失うので留意すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B／日置孝一・小宮あすか・担当者未定						
担当教員	日置孝一・小宮あすか・担当者未定						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解 基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。複数教員共同担当のオムニバス方式</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 パーソナルスペース 第2回 質問紙①（パーソナリティ） 第3回 質問紙②（仮想場面法） 第4回 ミュラー・リアー錯視 第5回 ミュラー・リアー錯視つづき 第6回 両側性転移 第7回 印象形成 第8回 情報の伝達と変容 第9回 Implicit association test 第10回 自由実験 課題作成1 第11回 自由実験 課題作成2 第12回 自由実験 実験実施&データ分析 第13回 自由実験 データ分析 第14回 自由実験 結果発表会1 第15回 自由実験 結果発表会2</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	授業への取り組み50%&レポート課題と最終課題の内容50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3, 4限続きの授業につき、最初から出席すること開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失うので留意すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B／日置孝一・小宮あすか・担当者未定						
担当教員	日置孝一・小宮あすか・担当者未定						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解 基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。複数教員共同担当のオムニバス方式</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 パーソナルスペース 第2回 質問紙①（パーソナリティ） 第3回 質問紙②（仮想場面法） 第4回 ミュラー・リアー錯視 第5回 ミュラー・リアー錯視つづき 第6回 両側性転移 第7回 印象形成 第8回 情報の伝達と変容 第9回 Implicit association test 第10回 自由実験 課題作成1 第11回 自由実験 課題作成2 第12回 自由実験 実験実施&データ分析 第13回 自由実験 データ分析 第14回 自由実験 結果発表会1 第15回 自由実験 結果発表会2</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	授業への取り組み50%&レポート課題と最終課題の内容50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3, 4限続きの授業につき、最初から出席すること開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失うので留意すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習Ⅰ／心理学特別演習Ⅰ						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学院進学など心理学のより高い専門性を目指す学生を対象とした授業。 心理系大学院の過去問を題材として、基礎系の心理学の諸概念や用語の正確な理解を目指すことを主な目的としている。加えて、基礎系の心理学の外国語過去問を題材として、心理学の専門書・論文を読みこなす上で必要な英語読解力の向上も行う。
授業計画 Syllabus	第1回 心理学の歴史 第2回 知覚 第3回 認知 第4回 学習1：条件づけ 第5回 学習2：様々な学習 第6回 記憶 第7回 動機づけと情動 第8回 知能 第9回 性格 第10回 初期発達 第11回 発達の理論 第12回 社会的認知 第13回 社会と人間 第14回 コミュニケーション 第15回 統計
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	期末試験が60%、通常授業時の課題提出・小テストなど平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回予習が必要です。意欲的な人のみ受講してください。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	授業中に指示する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II／心理学特別演習II						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：大学院進学などに向けた、より専門性の高い心理学的知識の習得を目的とします。</p> <p>概要：過去の入試問題（特に臨床心理学領域）を主な教材として使用し、単に問題を解くだけでなく、応用力まで身につけられるよう指導を行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 臨床心理学の歴史と現状</p> <p>第2回 臨床心理学の研究方法</p> <p>第3回 心的構造論</p> <p>第4回 適応・不適応と臨床</p> <p>第5回 臨床的課題の種類(1) ～発達障害～</p> <p>第6回 臨床的課題の種類(2) ～気分障害～</p> <p>第7回 臨床的課題の種類(3) ～統合失調症～</p> <p>第8回 臨床的課題の種類(4) ～人格障害～</p> <p>第9回 心理査定(1) ～知能・発達検査～</p> <p>第10回 心理査定(2) ～投影法人格検査～</p> <p>第11回 心理査定(3) ～その他人格検査～</p> <p>第12回 心理療法(1) ～心理療法の類型～</p> <p>第13回 心理療法(2) ～精神分析療法他～</p> <p>第14回 心理療法(3) ～認知療法他～</p> <p>第15回 まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習。
評価方法 Evaluation	<p>授業への参加意欲・貢献の程度： 50%</p> <p>課題、提出物等： 50%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	毎回予習が必要です。また、課題の提出を求めることも多くなります。意欲的な人のみ受講してください。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA／心理検査法I						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
授業計画 Syllabus	第1回：概論①－心理査定とは何か－ 第2回：概論②－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）実施法 第10回：ウェクスラー式知能検査（4）結果の処理 第11回：Y-G性格検査 第12回：MMPI（1）解説・実施法 第13回：MMPI（2）結果の処理 第14回：内田クレペリン精神作業検査 第15回：SDS職業適性診断テスト						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	講義と実習						
評価方法 Evaluation	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	実習を中心とするため、原則として欠席は認めない。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する						
参考書 Reference(s)	松原達哉（編著）『心理テスト法入門 第4版』（日本文化科学社）ISBN4-8210-6360-3						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA／心理検査法I						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
授業計画 Syllabus	第1回：概論①－心理査定とは何か－ 第2回：概論②－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）実施法 第10回：ウェクスラー式知能検査（4）結果の処理 第11回：Y-G性格検査 第12回：MMPI（1）解説・実施法 第13回：MMPI（2）結果の処理 第14回：内田クレペリン精神作業検査 第15回：SDS職業適性診断テスト						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	講義と実習						
評価方法 Evaluation	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	実習を中心とするため、原則として欠席は認めない。						
教科書 Textbook (s)	プリントを配布する						
参考書 Reference (s)	松原達哉（編著）『心理テスト法入門 第4版』（日本文化科学社）ISBN4-8210-6360-3						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB/心理検査法II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：投映法の学習</p> <p>「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、実習を通じて学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー投映法とは？</p> <p>#02：描画法①ーバウム・テスト</p> <p>#03：描画法②ー人物画テスト</p> <p>#04：描画法③ーS-HTP</p> <p>#05：描画法④ー風景構成法</p> <p>#06：SCT①ー理論と施行法</p> <p>#07：SCT②ー結果の整理と解釈</p> <p>#08：PFスタディ①ー理論と施行法</p> <p>#09：PFスタディ②ー結果の整理(1)</p> <p>#10：PFスタディ③ー結果の整理(2)</p> <p>#11：PFスタディ④ー結果の整理(3)</p> <p>#12：PFスタディ⑤ー結果の解釈</p> <p>#13：ロールシャッハ・テスト</p> <p>#14：TAT（主題統覚検査）</p> <p>#15：まとめ、レポート提出</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義， および実習， 演習形式
評価方法 Evaluation	平常点（30%）， 小レポート（30%）， および検査実習レポート（40%）により評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習と演習を中心とする授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被験者として検査実習を行うことが中心となるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：投映法の学習</p> <p>「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、実習を通じて学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー投映法とは？</p> <p>#02：描画法①ーバウム・テスト</p> <p>#03：描画法②ー人物画テスト</p> <p>#04：描画法③ーS-HTP</p> <p>#05：描画法④ー風景構成法</p> <p>#06：SCT①ー理論と施行法</p> <p>#07：SCT②ー結果の整理と解釈</p> <p>#08：PFスタディ①ー理論と施行法</p> <p>#09：PFスタディ②ー結果の整理(1)</p> <p>#10：PFスタディ③ー結果の整理(2)</p> <p>#11：PFスタディ④ー結果の整理(3)</p> <p>#12：PFスタディ⑤ー結果の解釈</p> <p>#13：ロールシャッハ・テスト</p> <p>#14：TAT（主題統覚検査）</p> <p>#15：まとめ、レポート提出</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義， および実習， 演習形式
評価方法 Evaluation	平常点（30%）， 小レポート（30%）， および検査実習レポート（40%）により評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習と演習を中心とする授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被験者として検査実習を行うことが中心となるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	原田 章						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】心理学で用いる統計解析手法の基礎</p> <p>【概要】心理学研究で行う実験や調査で必要となる統計学の基礎的内容の習得を目的とする。基礎的なデータ整理法から始め、記述統計量に関する内容を学習する。具体的には、平均値、中央値、分散、標準偏差、共分散、相関係数などである。日常生活に見られる例を挙げながら、統計量の求め方や値の読み方を学ぶ。また、授業中に簡単な演習を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ統計学が必要なのか？ 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値(1) 平均値 4. 代表値(2) 中央値 5. 代表値(3) 具体的な計算方法 6. 散布度(1) 分散と標準偏差 7. 散布度(2) 具体的な計算方法 8. 平均と標準偏差の読み方 9. 標準化と偏差値 10. 因果と相関 11. 散布図と相関 12. 共分散と相関係数 13. 相関係数の求め方 14. 相関係数の読み方 15. 心理学と統計解析
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と簡単な演習
評価方法 Evaluation	3分の2以上の出席が必須。最終成績は平常点(20%)と期末に行う試験の成績(80%)によって判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	四則演算と平方根が計算できる電卓を授業中に使うので用意すること。
教科書 Textbook(s)	特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	原田 章						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】心理学で用いる統計解析手法の基礎</p> <p>【概要】心理学研究で行う実験や調査で必要となる統計学の基礎的内容の習得を目的とする。基礎的なデータ整理法から始め、記述統計量に関する内容を学習する。具体的には、平均値、中央値、分散、標準偏差、共分散、相関係数などである。日常生活に見られる例を挙げながら、統計量の求め方や値の読み方を学ぶ。また、授業中に簡単な演習を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ統計学が必要なのか？ 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値(1) 平均値 4. 代表値(2) 中央値 5. 代表値(3) 具体的な計算方法 6. 散布度(1) 分散と標準偏差 7. 散布度(2) 具体的な計算方法 8. 平均と標準偏差の読み方 9. 標準化と偏差値 10. 因果と相関 11. 散布図と相関 12. 共分散と相関係数 13. 相関係数の求め方 14. 相関係数の読み方 15. 心理学と統計解析
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と簡単な演習
評価方法 Evaluation	3分の2以上の出席が必須。最終成績は平常点(20%)と期末に行う試験の成績(80%)によって判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	四則演算と平方根が計算できる電卓を授業中に使うので用意すること。
教科書 Textbook(s)	特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：坂本 真佐哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学の専門性を活かしてさまざまな現場で活躍する職業人にオムニバス形式で講義をお願いする。さまざまな現場で心理学の知識をどのようにいかしているかについて具体的に学び、将来像を描けるようにする。
授業計画 Syllabus	第1回 イン트로ダクション 第2回 クリニック（入院施設のない医療機関）における心理援助という仕事 第3回 犯罪被害者の支援という仕事 第4回 精神科医療における心理援助という仕事 第5回 緩和ケア病棟での心理援助 第6回 心理学の知識を活用した企業での仕事（1） 第7回 心理学の知識を活用した企業での仕事（2） 第8回 私設心理相談室での心理援助という仕事 第9回 情緒障害児短期療養施設での心理援助という仕事 第10回 教育センターでの心理援助という仕事 第11回 アニマルセラピーによる心理援助という仕事 第12回 総合病院における心理援助という仕事 第13回 児童相談所における心理援助という仕事 第14回 家庭裁判所調査官（家裁の人）という仕事 第15回 総括
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	オムニバスの講義形式
評価方法 Evaluation	平常点50%、小レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回学外の専門家の方が講義に来てくださいます。私語、居眠り、遅刻、早退厳禁。授業中の態度が悪いものは減点の対象となります。
教科書 Textbook (s)	なし
参考書 Reference (s)	なし
備考 Remarks	講師の都合により、予定に変更が生じることもあります。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法I						
担当教員	中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：精神分析と精神分析的心理療法</p> <p>精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論，かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また，精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を，精神分析的な心理療法という。この授業では，精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに，精神分析的な心理療法の実際について学習する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー精神分析・精神分析的な心理療法とは？</p> <p>#02：精神分析の基本的な観点①：局所論／構造論</p> <p>#03：精神分析の基本的な観点②：力動論</p> <p>#04：精神分析の基本的な観点③：経済論</p> <p>#05：精神分析の基本的な観点④：発達論</p> <p>#06：精神分析の発展①：アドラーとユング</p> <p>#07：精神分析の発展②：精神分析の学派（1）－自我心理学・対象関係論</p> <p>#08：精神分析の発展③：精神分析の学派（2）－自己心理学・対人関係論</p> <p>#09：精神分析の発展④：対象の拡大</p> <p>#10：精神分析と精神分析的な心理療法①：心的決定論と無意識の心理過程</p> <p>#11：精神分析と精神分析的な心理療法②：転移，逆転移，抵抗</p> <p>#12：精神分析と精神分析的な心理療法③：技法</p> <p>#13：精神分析と精神分析的な心理療法④：心的外傷と心的現実性</p> <p>#14：まとめ，試験</p> <p>#15：試験解題</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回の小レポート（15%），および期末試験（85%）により行う。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて，プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法III						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	比較的新しい心理療法の動向について学んでいく。 問題解決に焦点を絞った心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義的心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。また、心理療法の効果研究や倫理的側面についても触れ、心理援助サービスについて概観する視点について学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回：心理療法における「問題」の捉え方の変化 第2回：カウンセリングの技法いろいろ 第3回：ブリーフセラピーとコミュニケーション理論 第4回：ブリーフセラピーのモデルいろいろ 第5回：エリクソン派の理論と技法 第6回：MRIモデルの理論と技法（1） 第7回：MRIモデルの理論と技法（2） 第8回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（1） 第9回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（2） 第10回：ナラティブ・アプローチ（1） 第11回：ナラティブ・アプローチ（2） 第12回：心理療法の効果研究 第13回：心理療法における倫理（1） 第14回：心理療法における倫理（2） 第15回：試験と総括
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式で行う
評価方法 Evaluation	平常点30%、小テスト30%、期末テスト40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次回の授業までに必ず本人が受け取りにくること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法Ⅳ						
担当教員	東 豊						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>家族療法について理解を深める。 心理療法にはいくつかの方法があるが、その中から家族療法について理論と方法を学ぶ。家族療法はシステム論や社会構成主義の考え方に基づく技法群で、不登校や摂食障害等に効果的である。講師の経験した事例を中心に、できる限り具体的実内容的な内容にしたい。実生活でも役に立つ内容を多く含むので、本講で学ぶことが学生諸君の日常をいっそう豊かなものにしてくれると思う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業内容と進め方について 第2回 心理療法とは何か 第3回 家族療法とは何か 第4回 システムとしての家族 第5回 円環的なものの見方 第6回 家族の構造 第7回 構造的家族療法の考え方と技法 第8回 構造的家族療法の事例 第9回 家族のコミュニケーション 第10回 コミュニケーション・アプローチの考え方と技法 第11回 コミュニケーション・アプローチの事例 第12回 ストラテジック・アプローチの考え方と技法 第13回 ストラテジック・アプローチの事例 第14回 最新の家族療法～ナラティブ・アプローチとソリューション・アプローチ 第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点 30% 期末テスト 70%
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が求められます。
教科書 Textbook(s)	セラピスト入門 (日本評論社)
参考書 Reference(s)	適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	森永 康子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代日本を読みとくための手がかりとして「ジェンダーの視点」を理解することをめざす。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダーとは何か。男女雇用機会均等法について考える。 2. 男女の違い：女性と男性はどこが違うのか考える。 3. フェミニズムの歴史と心理学とのかかわりについて考える。 4. 社会的学習理論による子どものジェンダー化について考える。 5. 認知発達理論による子どものジェンダー化について考える。 6. ジェンダー・ステレオタイプについて説明する。 7. ジェンダー・ステレオタイプと「ジェンダーを演じる」ことについて考える。 8. 青年期の発達の特徴について学ぶ。 9. 青年期とジェンダーとの関わりについて考える。 10. ジェンダーのもたらす「男性」の心理学的問題について考える。 11. ジェンダーのもたらす「女性」の心理学的問題について考える。 12. 女性のライフ・サイクル1：自分の将来を考えてみよう。 13. 女性のライフ・サイクル2：「仕事」について考えてみよう。 14. 女性のライフ・サイクル3：「結婚と子ども」について考えてみよう。 15. まとめとテスト
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	テスト（100%）とレポート（10%：任意提出）に基づく。 レポートは、祖母・祖父の伝記を作成する（10%）。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回の授業につき文献を2つ紹介する。文献は下記の参考図書だが、読む箇所（ページ数）は授業で指定。
教科書 Textbook (s)	なし
参考書 Reference (s)	<p>牟田和恵（編）2009 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ 大阪大学出版会 ISBN 4872592891</p> <p>神崎智子 2009 戦後日本女性政策史-戦後民主化政策から男女共同参画社会基本法まで 明石書店 4750329967</p> <p>セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク（編著）2003 セクシュアルマイノリティ第2版 明石書店 4750322822</p> <p>井上 俊・伊藤公雄（編）2010 近代家族とジェンダー 世界思想社 4790714497</p> <p>江原由美子・金井淑子（編）2002 フェミニズムの名著50 平凡社 4582472281</p> <p>キャディ 2007 『切除されて』 ヴィレッジブックス 4789730972</p> <p>ファウジーヤ・カシンジャ 1999 『ファウジーヤの叫び』 ソニーマガジンズ 4863326343&4863326351</p> <p>ベム, S.L. (著) 福富 護 (訳) 1999 ジェンダーのレンズ 川島書店 4761007109</p> <p>鈴木淳子・柏木恵子 2006 ジェンダーの心理学 培風館 456305884X</p> <p>福富護（編）2006 ジェンダー心理学 朝倉書店 4254526741</p> <p>法則研究プラザ編 2007 法則探検に出かけよう 三重大学出版会 4944068905</p> <p>斎藤美奈子 1998 紅一点論：アニメ・特撮・伝記のヒロイン像 ビレッジセンター出版局 4480036660</p> <p>小山静子 2009 戦後教育のジェンダー秩序 勁草書房 4326653418</p> <p>斎藤美奈子 2003 モダンガール論 文春文庫 4167656876</p> <p>吉田寿夫 2002 人についての思い込みII 北大路書房 4762822833</p> <p>パット・ムーア 2005 私は三年間老人だった 朝日出版 4255003149</p>

参考書 Reference(s)	青野篤子ほか 2004 ジェンダーの心理学改訂版 ミネルヴァ書房 4623041530 カプラン&カプラン 2010 認知や行動に性差はあるのか 北大路書房 4762827320 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会(編) 初めてのジェンダースタディーズ 北大路書房 4762822930 バブコック&ラシェーヴァー 2005 そのひとことが言えたら 北大路書房 4762824526
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	情報社会の心理学／情報社会の心理						
担当教員	福井 斉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	情報社会の光と影が“心”に及ぼす影響についてインターネットや携帯電話の爆発的な普及は情報伝達の空間的、時間的距離を短縮しましたが、一方で情報への依存度も高まっています。この授業では、具体的なトピックを交えて情報社会の光と影が私たちの“心”に及ぼす影響について考察していきます。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス + コミュニケーションの変容 ② うわさ (Ⅰ) ～なぜうわさは広まるのか?～ ③ うわさ (Ⅱ) ～うわさへの対処法～ ④ うわさ (Ⅲ) ～くちコミと消費者行動～ ⑤ うわさ (Ⅳ) ～くちコミと広告～ ⑥ うわさ (Ⅴ) ～ブランド～ ⑦ 流行現象 ～流行の普及過程～ ⑧ 携帯電話とコミュニケーション (Ⅰ) ～携帯電話の急速な普及の背景～ ⑨ 携帯電話とコミュニケーション (Ⅱ) ～対人関係希薄化論から選択的対人関係論へ～ ⑩ インターネットとコミュニケーション (Ⅰ) ～インターネット・パラドックス～ ⑪ インターネットとコミュニケーション (Ⅱ) ～オンラインゲーム～ ⑫ 目撃証言 ～有用性と危険性～ ⑬ リテラシー問題 ～少年非行は本当に増加・凶悪化しているか?～ ⑭ 情報社会の心理の総合的理解 ⑮ 試験と解説
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	講義 (原則、毎回レジュメを配布)
評価方法 Evaluation	期末試験と授業への取り組み姿勢 (出席、授業態度、ミニレポート)、確認テストで総合的に評価 評価の目安: 期末試験6割、授業への取り組み姿勢3割、確認テスト1割
履修上の注意 Requirements and policy	各回の講義終了時にそれぞれの感想 (ミニレポート) を提出してもらい、それをもって出欠の記録とします。真剣に取り組めばそれだけ得るものも多い授業にしたいと考えています。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	児童期の臨床心理学／臨床心理学研究法Ⅱ						
担当教員	寺井 さち子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学的立場から、幅広く人の心についての理解を深める。 臨床実践的目的だけではなく、より広い視点に立ち、日頃からの子ども理解や子どもを育てる立場になった際に役立つような、子ども理解に関する幅広い内容を目指す。簡単なロールプレイ、エンカウンタープログラム、またディスカッションなどを盛り込み、講義と実践的体験を織り込んだ授業を展開する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理の分野についての概説。 2. 自分を知る試み 私ってだれ？ 3. 精神的健康と自己のあり方。心理テスト実践。 4. 子どもの絵を通して考える心理理解。 5. 童謡や詩を通して考える心理① 6. 絵本を通して考える心理①「怪獣達のいるところ」 7. 絵本を通して考える心理②「100万回生きた猫」 8. 童話を通して考える心理①「イソップ物語」から 9. 童話を通して考える心理②「アルプスの少女ハイジ」 10. ビデオを通して考える心理「ポニョとトトロ」から 11. ビデオを通して考える心理「千と千寿の神隠し」 12. 児童文学を通して考える「星の王子様」から 13. 世界の子供たちを知る 13. 臨床における子どもについての解説 14. 総合的講義 15. まとめと到達度確認(試験)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義も行うが、体験的プログラムが多いので、その積もりで出席すること。
評価方法 Evaluation	評価は試験を中心に行うが、平常点30%とし、欠席の場合減点する。
履修上の注意 Requirements and policy	受身的ではなく、意欲的な授業態度で臨むこと。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて適宜、プリントや本、ビデオ等学習材料を用意する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	私語や携帯電話・携帯メールの使用は、原則的に禁止とする。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	本講義では、ヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関するこれまでの研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1） 第7回目：パーソナリティと発達（2） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1） 第10回目：パーソナリティの測定法（2） 第11回目：パーソナリティの変容（1） 第12回目：パーソナリティの変容（2） 第13回目：自分のパーソナリティを考える 第14回目：復習ならびに試験 第15回目：まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な態度で授業に参加してください
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：成人期・老年期の課題と危機</p> <p>本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期</p> <p>#02：成人期の心理学的特徴と発達課題</p> <p>#03：結婚・妊娠・出産</p> <p>#04：子育て</p> <p>#05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス</p> <p>#06：職場における問題（2）：うつ病と自殺</p> <p>#07：老親の介護における心理的問題</p> <p>#08：中値期危機</p> <p>#09：老年期の心理学的特徴と発達課題</p> <p>#10：認知症</p> <p>#11：老年期うつと妄想</p> <p>#12：老年期における喪失体験</p> <p>#13：老年期における死の問題</p> <p>#14：まとめ、試験</p> <p>#15：試験解題</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回の小レポート（15%）、および期末試験（85%）により行う。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、末期患者の心理、病名告知、ターミナルケア、遺族の悲嘆、外傷的死別（犯罪、事故、自殺など）、グリーフカウンセリングなどを取り上げさまざまな観点から死についての理解を深める。また、安楽死や妊娠中絶など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学んでいく。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。
授業計画 Syllabus	第1回：対象喪失と悲嘆 第2回：通常の悲嘆反応と通常でない悲嘆反応 第3回：悲嘆に影響を及ぼす要因 第4回：実習（1）自らの体験に学ぶ 第5回：さまざまな喪失（1） 第6回：さまざまな喪失（2） 第7回：ケアを行う際の基本的姿勢 第8回：支援の方法 第9回：実習（2）グリーフカウンセリング 第10回：病名の告知 第11回：ホスピスとQOL 第12回：末期患者と家族のケア 第13回：生命倫理 第14回：グループ発表と討議 第15回：質疑応答と試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義（実習も含む）
評価方法 Evaluation	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	柏木哲夫（著）『死を学ぶ』有斐閣 ISBN4-641-07582-4
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学／臨床心理学研究法V						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：青年期に誰もが直面する発達の課題や、青年期に特有の教育問題、社会問題、精神疾患等について、臨床心理学的な観点から理解を深めることを目的とします。</p> <p>概要：受講生自身の経験や考えと結びついた知識が得られるよう、身近な素材や事例を用いて講義を行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 生涯発達からみた青年期</p> <p>第2回 青年期の発達課題</p> <p>第3回 家族と青年期 ～自立の時期とあり方～</p> <p>第4回 家族の病理と青年期</p> <p>第5回 対人関係と青年期 ～友人・恋人の選択と距離感～</p> <p>第6回 対人関係の病理と青年期</p> <p>第7回 教育と青年期 ～学ぶことの臨床心理学的意味～</p> <p>第8回 教育課題と青年期</p> <p>第9回 社会と青年期 ～働くことの臨床心理学的意味～就労問題への臨床心理学的理解～</p> <p>第10回 青年期における社会的不適応(1) ～社会的ひきこもりの現状と理解～</p> <p>第11回 青年期における社会的不適応(2) ～青少年犯罪の現状と理解～</p> <p>第12回 青年期と精神疾患(1) ～統合失調症への臨床心理学的理解～</p> <p>第13回 青年期と精神疾患(2) ～感情障害への臨床心理学的理解～</p> <p>第14回 青年期の精神疾患(3) ～心身症への臨床心理学的理解～</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。
評価方法 Evaluation	<p>授業への参加意欲・貢献の程度（授業後レポートを含む）： 40%</p> <p>期末試験： 60%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	主体的な授業参加を期待します。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生理心理学						
担当教員	坂井 信之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>こころとからだの関係を科学する 我々ヒトの体はどのように作られ、どのように機能しているかということについては、よく知られています。でも、こころがどのように機能しているかということについては、心理学の100年強の歴史を持ってしても、未だにわからないことがたくさんあります。そこで、この授業では、こころの機能を体（主に脳）との関係を通して理解することにより、皆さんのこころへの理解を一步進めたいと思っています。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明と導入 授業の進め方についての説明、簡単な生物学知識の復習 2. 生まれ (nature) か育ち (nurture) か 生得説=遺伝子中心主義、経験主義=ヒトは生物ではない（それを超えるモノだ）説 3. 遺伝子とDNA ヒトゲノム計画、様々な遺伝病、ポストゲノムと心理学 4. 神経細胞と細胞内情報伝達 ニューロン、シナプス、神経伝達物質、レセプター、セカンドメッセンジャー、神経の可塑性 5. 神経とからだの機能 痛覚、呼吸・心拍数、覚醒・睡眠、消化・吸収 6. 中枢神経系の研究方法 脳波、脳磁場計測、functional MRI、PET、損傷・破壊法 7. 大脳皮質と大脳辺縁系 前頭葉、島皮質、扁桃体、視床下部、海馬 8. 視覚・聴覚・体性感覚 動きと形、認知、統合、注意、身体心像（幻肢） 9. 化学感覚（嗅覚・味覚） 二オイ、味、風味知覚、共感覚 10. 学習の神経的基盤 シナプス長期増強、記憶、海馬 11. ホメオスタシス 環境への適応、血糖値とインスリン 12. 行動の生物学的基盤 食行動、性行動、社会行動 13. 性格と脳・遺伝子の関係 セロトニン、うつ病、性格は「生まれ」か「育ち」か？ 14. 脳とこころ 感じているのは脳かこころか？ 15. まとめ
参照URL Reference URL(s)	http://kssakai1.shoin.ac.jp/nob_sakai/Biopsy/PPindex.html
授業方法 Class type	プレゼンテーションソフトを使った講演形式の授業となる。すべてのスライドのメモを取る必要はない。なお、ホームページなどでのスライドの公開を予定しているので、授業の前に確認しておくこと。
評価方法 Evaluation	毎回課す小レポートとテストより総合的に判断する（だいたいの配分は1:2）。
履修上の注意 Requirements and policy	出席点とは、単に出席するだけで与えられるものではなく、小レポートや課題など、授業への積極的な参加に基づいて、評価するものである。授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出などに対しては厳しく対処（出席点より減点）する。
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	乾 美紀						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	卒業論文の執筆に向けて、各自が研究を進めるための指導を行う。研究テーマ、仮説、調査方法、分析について発表や討論を行う。ゼミの後半は各自の進行状況に従って、個別指導をする。						
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション、年間計画の作成 第2回 文献検索 (1) 第3回 文献検索 (2) 第4回 研究計画の発表 (1) 第5回 研究計画の発表 (2) 第6回 研究計画の発表 (3) 第7回 データの入力と処理 (1) 第8回 データの入力と処理 (2) 第9回 データの入力と処理 (3) 第10回 論文執筆 (方法1) 第11回 論文執筆 (方法2) 第12回 論文執筆 (方法3) 第13回 論文執筆 (結果1) 第14回 論文執筆 (結果2) 第15回 論文執筆 (結果3) 第16回 中間発表 (1) 第17回 中間発表 (2) 第18回 論文執筆 (問題1) 第19回 論文執筆 (問題2) 第20回 論文執筆 (問題3) 第21回 論文執筆 (考察1) 第22回 論文執筆 (考察2) 第23回 論文執筆 (考察3) 第24回 問題、考察の発表と討論 (1) 第25回 問題、考察の発表と討論 (2) 第26回 問題、考察の発表と討論 (3) 第27回 文献リストの書き方 第28回 文献リストの作成 第29回 論文の全体的な仕上げ (1) 第30回 論文の全体的な仕上げ (2)						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type							
評価方法 Evaluation	ゼミへの出席、卒論への取り組み、ゼミへの関与度など						
履修上の注意 Requirements and policy							
教科書 Textbook(s)							

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	大和田 攝子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	各自が選んだテーマに沿って研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。進行状況に応じて中間発表を行うが、全体的には個別指導が中心となる。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの決定 (1) 第3回：研究テーマの決定 (2) 第4回：研究計画の立案 (1) 第5回：研究計画の立案 (2) 第6回：研究計画の立案 (3) 第7回：研究計画の立案 (4) 第8回：調査・実験の準備 (1) 第9回：調査・実験の準備 (2) 第10回：調査・実験の準備 (3) 第11回：調査・実験の準備 (4) 第12回：調査・実験の準備 (5) 第13回：データ収集 (1) 第14回：データ収集 (2) 第15回：データ収集 (3) 第16回：卒論中間発表会 第17回：データの入力と分析 (1) 第18回：データの入力と分析 (2) 第19回：データの入力と分析 (3) 第20回：データの入力と分析 (4) 第21回：論文執筆 (1) 第22回：論文執筆 (2) 第23回：論文執筆 (3) 第24回：論文執筆 (4) 第25回：論文執筆 (5) 第26回：校正 (1) 第27回：校正 (2) 第28回：校正 (3) 第29回：口頭試問(1) 第30回：口頭試問(2)
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式による授業と個別指導
評価方法 Evaluation	研究に取り組む姿勢 (50%) と卒業論文 (50%)
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	久津木 文						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめていく作業を行う。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認</p> <p>第2回 研究計画の発表(1)</p> <p>第3回 研究計画の発表(2)</p> <p>第4回 実験・調査実施準備(1)</p> <p>第5回 実験・調査実施準備(2)</p> <p>第6回 実験・調査実施準備(3)</p> <p>第7回 実験・調査の仮実施(1)</p> <p>第8回 実験・調査の仮実施(2)</p> <p>第9回 実験・調査方法の変更・改善(1)</p> <p>第10回 実験・調査方法の変更・改善(2)</p> <p>第11回 実験・調査の実施(1)</p> <p>第12回 実験・調査の実施(2)</p> <p>第13回 実験・調査の実施(3)</p> <p>第14回 データの入力と処理(1)</p> <p>第15回 データの入力と処理(2)</p> <p>第16回 データの入力と処理(3)</p> <p>第17回 方法、結果の発表(1)</p> <p>第18回 方法、結果の発表(2)</p> <p>第19回 論文執筆(序論1)</p> <p>第20回 論文執筆(序論2)</p> <p>第21回 論文執筆(序論3)</p> <p>第22回 論文執筆(結果1)</p> <p>第23回 論文執筆(結果2)</p> <p>第24回 論文執筆(考察1)</p> <p>第25回 論文執筆(考察2)</p> <p>第26回 問題、考察の発表と討論(1)</p> <p>第27回 問題、考察の発表と討論(2)</p> <p>第28回 文献リストの作成</p> <p>第29回 要約、資料の作成</p> <p>第30回 論文の仕上げ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール方式
評価方法 Evaluation	自主的に研究を進めていく態度・能力に対する評価 60% 最終論文評価 40%
履修上の注意 Requirements and policy	3回次の春休みの間にできるだけできる作業を進めておくことを強く推奨する。 夏休み中に調査や実験を行うことになる可能性もある。
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどについて各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。進行状況に従い、随時報告、発表させ個別指導を行っていく。
授業計画 Syllabus	第1回：研究計画とディスカッション 第2回：研究計画とディスカッション 第3回：研究計画とディスカッション 第4回：研究計画とディスカッション 第5回：研究計画とディスカッション 第6回：研究計画とディスカッション 第7回：調査/研究の実際 第8回：調査/研究の実際 第9回：調査/研究の実際 第10回：調査/研究の実際 第11回：調査/研究の実際 第12回：調査/研究の実際 第13回：データ解析とプレゼンテーション 第14回：データ解析とプレゼンテーション 第15回：データ解析とプレゼンテーション 第16回：データ解析とプレゼンテーション 第17回：データ解析とプレゼンテーション 第18回：データ解析とプレゼンテーション 第19回：論文指導 第20回：論文指導 第21回：論文指導 第22回：論文指導 第23回：論文指導 第24回：論文指導 第25回：論文指導 第26回：論文指導 第27回：論文指導 第28回：論文指導 第29回：論文指導 第30回：論文指導
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式と個別指導
評価方法 Evaluation	平常点および論文の内容80%、口頭試問20%
履修上の注意 Requirements and policy	自発的に研究をすすめ、多くの討論を重ねながら卒業論文を完成させること
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	寺井 さち子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	卒業論文の作成 心理学演習で進めてきた子どもに関する学習をもとに、卒業研究のテーマを定め、その作成に取り組む。 具体的には、研究計画書の提出（それについての発表と討論）、調査・実験の実施（前期中の実施を目標とする）、データの整理などであり、個別指導を中心に作成を進めるものとする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理しまとめる。 2. まとめたヴィジョンをゼミで発表する。 3. テーマに関する先行研究、関連書籍を図書館で調べる。 4. テーマに関する先行研究論文をサイニーで検索する。 5. できる限り多くの論文を集める。 6. 多くの論文を読み込んで選別し、各自のテーマに即したものをピックアップする。 7. ピックアップした先行研究・関連図書から各自の論文の計画に沿った物、活用できるものを選別して概要をまとめ、ゼミで報告する。 8. データ収集法をはじめ細心にわたる研究計画を作成し、担当教員に報告する。 9. 調査用紙を作成する。 10. 調査用紙あるいは実験内容を完成させ、周りのゼミ仲間などにやってみてもらう。 11. 調査・実験等の実施を行う。 12. 調査・実験の終了に向け補足調査等行う。 13. 収集したローデータを集約する。 14. ローデータをパソコンに入力する。 15. 一次集計結果を出す。 16. 先行研究等を参考にして、一次集計結果を踏まえ必要な検定に取り掛かる。 17. SPSSあるいはエクセルを使用して必要な検定を実施する。 18. 検定の結果を整理する。 19. 一次集計及び検定結果等を表や図に表す。 20. 方法と結果について文書化を進めながら、全体の論旨を思索する。 21. まとめておいた先行研究の結果や論旨を振り返る。 22. 各自の研究結果と先行研究を照らし合わせる。 23. 各自が得た検定結果と仮説を照らし合わせて心理学的分析に入る。 24. 仮説と検定結果を照合したものを結果としてまとめ、文章化する。 25. はじめにから方法、結果、考察と、論文作成を進める。 26. 考察までの論文作成を進め、注や参考文献の整理も行う。 27. 一旦出来上がった論文を担当教員に一度提出し、アドバイスを受ける。 28. アドバイスを受けた点を考慮し、再度論文を建て直す。 29. 修正した論文を担当教員に提出し、最終チェックを受ける。 30. 完成した論文を教務課に提出する。 <p>30. 卒業論文の提出。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	基本スタイルはゼミの時間内の指導とするが、後期になると場合によっては個別指導で対応する
評価方法 Evaluation	平常の研究態度を30%とし、70%は論文の質や完成度によって評価する
履修上の注意 Requirements and policy	各自が自分の卒業研究を責任を持って作成するのだという自覚を持ち、主体的に取り組むこと
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	各自が、各々の卒業研究に合わせて図書館の本を使用したりや論文を検索したりする。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中村 博文						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：卒業論文の作成</p> <p>心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての研究を行い，その成果を卒業論文として提出する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション</p> <p>#02：研究テーマの最終検討①</p> <p>#03：研究テーマの最終検討②</p> <p>#04：データ収集法の検討①</p> <p>#05：データ収集法の検討②</p> <p>#06：データ収集法の検討③</p> <p>#07：データの収集①</p> <p>#08：データの収集②</p> <p>#09：データの収集③</p> <p>#10：データの収集④</p> <p>#11：データの収集⑤</p> <p>#12：データのまとめ①</p> <p>#13：データのまとめ②</p> <p>#14：データのまとめ③</p> <p>#15：データの分析①</p> <p>#16：データの分析②</p> <p>#17：データの分析③</p> <p>#18：中間報告</p> <p>#19：論文執筆①</p> <p>#20：論文執筆②</p> <p>#21：論文執筆③</p> <p>#22：論文執筆④</p> <p>#23：論文執筆⑤</p> <p>#24：卒業論文初稿の提出</p> <p>#25：論文修正①</p> <p>#26：論文修正②</p> <p>#27：論文修正③</p> <p>#28：卒業論文の提出</p> <p>#29：口頭試問①</p> <p>#30：口頭試問②</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習。個別指導が中心となる。
評価方法 Evaluation	研究へのコミットの程度（50%），および卒業論文（50%）。
履修上の注意 Requirements and policy	各自が，主体的に研究および論文執筆に取り組むことを求める。
教科書 Textbook(s)	指定しない。

参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	東 豊						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	卒業論文の作成を目的とする。まず臨床心理学領域で各自の興味あるテーマをみつけるため、毎週2名ずつ過去の様々な研究論文を精読/発表し、ディスカッションを行う。テーマが絞り込まれたら卒業論文作成に取り組む。経過発表とディスカッションを随時行うが、基本的に個人指導となる。卒業論文には各自の行った調査等から得られたデータを使用することが必要条件である。
授業計画 Syllabus	第1回 ゼミ運営の説明 第2回～第11回 卒論に関する臨床心理学領域の論文・書籍の発表とディスカッション（各回2名） 第12回～第21回 卒論作成の中間報告とディスカッション（各回2名） 第22回～第27回 卒論の仕上げ 第28回～第30回 卒論発表（各回3、4名）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	受講者による発表とディスカッション及び卒論作成のための指導
評価方法 Evaluation	卒業論文の内容（100%）
履修上の注意 Requirements and policy	なし
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	待田 昌二						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ 卒業論文の作成 人や動物の行動と心理について、学生各自がテーマを定めて論文を完成する。 個別指導のみならず、学生相互の発表と討論を通して研究計画を練り上げ、具体的な研究を進め、結果の分析と考察を行なっていく。その過程で、プレゼンテーションの技術も磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 卒業研究の進め方と各自の関心の発表 第2回 予備調査の準備 第3回 予備調査 第4回 予備調査結果の分析方法について 第5回 予備調査結果の分析 第6回 予備調査結果のグラフ化 第7回 予備調査結果の統計分析 第8回 卒論テーマの関連文献の収集 第9回 卒論の調査・実験方法について 第10回 卒論の調査・実験方法の検討 第11回 卒論の問題・方法の発表（1） 第12回 卒論の問題・方法の発表（2） 第13回 卒論の問題・方法の発表（3） 前期終了時に 卒業論文の問題・方法部分を待田まで提出 第14回 卒論の調査・実験の実施（1） 第15回 卒論の調査・実験の実施（2） 第16回 データ入力 第17回 データ処理方法 第18回 データ分析 第19回 基本的統計 第20回 統計的検定 第21回 結果のグラフ化（1） 第22回 結果のグラフ化（2） 第23回 結果の文章化（1） 第24回 結果の文章化（2） 第25回 考察（1） 第26回 考察（2） 第27回 引用文献、目次など卒論の全体の体裁 12月後半に卒業論文原稿を待田まで提出 第28回 卒業論文原稿の手直し 卒業論文提出（提出期限1月16日） 第29回 卒業論文発表準備 第30回 卒業論文発表会</p>
参照URL Referance URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点20%、論文60%、発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	主体的な取り組みが必要です

教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ 対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解</p> <p>講義内容 我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほとんど全員が顔見知りというコミュニティにおける生活から、見知らぬ人間と頻りにコミュニケーションを行い、新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションの展開と問題点についても考えていく。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー非言語的コミュニケーションの重要性 2. 姿かたちーなぜヒトは顔にこだわるのか 3. 姿かたちーなぜさまざまな姿かたちがあるのか 4. 姿かたちー顔立ちから性格はわかるか 5. 姿勢としぐさー感情の表出 6. 姿勢としぐさー様々なしぐさ 7. 表情ー表情とは何か 8. 表情ー笑い 9. 情動反応 10. 視線ー動物における重要性、子どもの発達と視線 11. 印象操作ー服装・髪型 12. 会話ー会話における非言語的コミュニケーション、視線、応答 13. 会話における非言語コミュニケーションの続きと第1回試験 14. 会話における非言語コミュニケーションの続きと第1回試験の解説 15. 質疑応答と第2回試験 						
参照URL Reference URL(s)	<p>参考図書</p> <p>http://ksw.shoin.ac.jp/~machida/refer/commu/comrefer.html</p>						
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	授業時に毎回提出する小課題50%と試験50%						
履修上の注意 Requirements and policy	教科書を使わないので、出席してノートを取り、配布プリントを必ず受け取ること。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)	<p>Web上で紹介しています。</p> <p>学内ポータルサイトから「心理学のページ」→「授業関連」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語的コミュニケーション」</p>						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	廣川 空美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会意識を質問紙により調査し、分析するための知識を習得することが、本講義の目的である。学生が各自の調査目的にそって質問紙を作成し、調査を実施し、データの集計、分析の方法を習得する。SPSSを使用し、サンプルデータを用いて分析方法を解説する。記述統計から多変量解析まで習得する。
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション 質問紙調査の概要・概念化と分析モデルの作成 第2回 質問紙調査の手順 第3回 質問項目の作成と尺度 第4回 データの入力と加工、SPSSサンプルデータについて 第5回 単純集計 第6回 グラフ 第7回 代表値とばらつき 第8回 複数回答データ 第9回 クロス集計と関連性を表す統計量 第10回 統計的推定と検定の考え方 第11回 適合度・独立性・比率の差の検定 第12回 t検定と分散分析 第13回 重回帰分析 第14回 因子分析 第15回 筆記試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	SPSSを用いた実習を交えながらの講義
評価方法 Evaluation	筆記試験とレポート
履修上の注意 Requirements and policy	原則として、心理学科の専門科目の「心理学調査法」を履修していること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	岩井紀子・保田時男「調査データ分析の基礎」有斐閣
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	トラウマの心理学／心理療法V						
担当教員	富田 拓郎						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>トラウマと聞けば、学生諸君は何をイメージするだろうか？「こころの傷」、「災害」、「犯罪と被害者」、「死別（喪失）と悲嘆」、「虐待」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」、「失恋」、「いじめ」、「ハラスメント（セクハラ・パワハラ・モラハラ等）」……ここに挙げた以外に、もっとさまざまなものが出てくるかもしれない。しかしトラウマをめぐる課題はそれだけではない。多岐にわたるトラウマの問題について、歴史的経緯からこれまでに明らかになったさまざまな心理学・精神医学的知見を紹介する。同時に、トラウマが引き金となるさまざまなメンタルヘルス上の問題（PTSD、気分障害、不安障害など）とその介入技法、またトラウマを経験した場合の予防的対処法、トラウマティック・ストレスを緩和する要因（レジリエンス）などについて、実証データに基づく、最新の科学的知見（エビデンスベーストな知識）を学ぶ。また近年、ナラティブ理論に基づくアプローチがトラウマ・悲嘆のカウンセリングや心理療法に応用されているが、この点についても紹介する。可能であれば、トラウマ経験者の実際の話や映像を紹介する予定である。そして、諸君自らが、あるいは親しい友だちが、実際にさまざまなトラウマに遭遇した場合、どうすればよいのか、ということも随時触れてみたい。受講生諸君がこれまでの人生を省みて、今後の人生を歩む上で大いに活かせるような講義にしていく。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 トラウマとは何か：定義 第2回 トラウマの歴史的経緯と議論 第3回 トラウマ反応とは何か（含 解離など） 第4回 大規模災害によるトラウマ：災害直後から中長期後 第5回 犯罪被害者のトラウマ：大規模犯罪 第6回 犯罪被害者のトラウマ：性犯罪 第7回 子どものトラウマ（犯罪、いじめ、虐待など） 第8回 ドメスティック・バイオレンス（DV） 第9回 遺族（犯罪、災害、事故、自死、幼い子どもの死など）のトラウマ反応と長期化悲嘆 第10回 さまざまなトラウマ関連尺度 第11回 PTSDの治療法（薬物治療、持続エクスポージャー法、EMDRなど） 第12回 死別へのナラティブ・アプローチ（末期患者、遺族など） 第13回 レジリエンス、トラウマ後の『成長』 第14回 トラウマ支援者のストレスと対処法 第15回 まとめ・ふり返り〈あなたの友達がトラウマを経験したら？〉、レポート提出（予定）</p>						
参照URL Reference URL(s)	http://www1.odn.ne.jp/tomitat/trauma/						
授業方法 Class type	講義（必要に応じて心理テストの体験実習を含む）						
評価方法 Evaluation	平常点（30%）、レポート（70%）で評価する。授業後に呈示するオプション課題は任意提出であるが、提出があれば評価対象とする。欠席は減点対象とする。						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>1）資料は全てHP（参考URL）から毎回、授業前に必ずダウンロードしてから臨むこと（講義時の紙媒体による資料配布は原則として行わない）。</p> <p>2）履修（単位修得）のためには、授業への積極的な参加が望ましい。</p> <p>3）受講上の心構えや講義の方針、成績評価、受講生からの質問の対処法、講師の連絡先など、本講義に関する詳細は初回授業時にコース packets（受講の手引き）を配布し、具体的に指示する。</p>						
教科書 Textbook(s)	『心的トラウマの理解とケア 第2版』 外傷ストレス関連障害に関する研究会（代表）金吉晴（編） じほう（刊） 2006年 2,310円						
参考書 Reference(s)	<p>『トラウマの臨床心理学』 西澤哲（著）金剛出版（刊） 1999年 3,360円</p> <p>『トラウマティック・ストレス—PTSDおよびトラウマ反応の臨床と研究のすべて』 ヴァン・デア・コルク他（著）西澤哲（訳）誠信書房（刊） 2001年 8,925円</p> <p>『喪失と悲嘆の心理療法—構成主義からみた意味の探究』 ニーマイヤー（編著）富田拓郎・菊池安希子（監訳）金剛出版（刊） 2007年 5,040円</p>						

参考書 Reference(s)	『PTSDの臨床研究—理論と実践—』 飛鳥井望（著） 金剛出版（刊） 2008年 3,150円 『性犯罪被害にあうということ』 小林美佳（著） 朝日新聞出版（刊） 2008年 1,260円 『STAND 立ち上がる選択』 大藪順子（著） いのちのことば社フォレストブックス（刊） 2007年 1,575円 『子ども被害者学のすすめ』 フィンケルホー（編著） 森田ゆり他（訳） 岩波書店（刊） 2010年 2,835円 『アディクションとしての自傷—「故意に自分の健康を害する」行動の精神病理—』 松本俊彦（著） 星和書店（刊） 2011年 2,730円 （他の参考書は必要に応じて、授業時に別途指示する。）
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。
授業計画 Syllabus	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 知覚の不思議 第3講 知覚2 光と色の心理学 第4講 知覚3 三次元の世界 第5講 記憶1 自由再生の実験からわかること 第6講 記憶2 感覚記憶と短期記憶 第7講 記憶3 長期記憶 第8講 推論と思考 サバイバルゲーム 第9講 心の病と認知1 ストレスと認知 第10講 心の病と認知2 うつと認知 第11講 心の病と認知3 認知療法 第12講 社会的認知1 自己認知とアサーション 第13講 社会的認知2 他者認知 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人の認知の特徴やしぐみについて、講義と体験学習を通して理解する。 講義では、主に配付資料、スライド、ビデオを用いる。
評価方法 Evaluation	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 期末試験では、客観式問題70点、論述式問題30点として採点する。 出席状況は毎回配布する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。
履修上の注意 Requirements and policy	基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。 ①私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 ②携帯電話は、電源を切るかマナーモードにしておくこと。
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。毎週、資料を配布する。
参考書 Reference(s)	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A／発達心理学I						
担当教員	久津木 文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	授業の目的&概要：人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり。現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。
授業計画 Syllabus	1オリエンテーション 発達とは 2発達の仕組みと様相 3乳幼児発達心理学の研究法 4遺伝と環境 5胎児期・新生児期 6乳幼児期の運動発達 7乳児期～物理的認知 1 8乳児期～物理的認知 2 9乳児期～情動・愛着の発達 10乳児期～コミュニケーションの芽生え 1 11乳児期～コミュニケーションの芽生え 2 12幼児期～社会性の発達 13幼児期～表象の獲得 14試験 15試験の復習
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義方式
評価方法 Evaluation	平常点（授業態度等）30%， 期末テスト70%
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 欠席3回で受講資格を失う 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。
教科書 Textbook(s)	適宜紹介する
参考書 Reference(s)	適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B／発達心理学II						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、幼児期のコミュニケーション発達から児童期、そして大人になってからの発達の变化を含む。本講義を履修の際には「発達心理学A」をすでに履修しているか、「発達心理学A」で概説されている内容を図書などで理解しておくことが強く求められる。
授業計画 Syllabus	1オリエンテーション これまでのおさらい 2幼児期～言語の獲得 1 3幼児期～言語の獲得 2 4心の理論の発達 1 5心の理論の発達 2 6児童期～認知・思考 7児童期～対人関係の形成・道徳の発達 8青年期～身体と心・アイデンティティの統合 9成人期～社会経験の開始 10成人期～結婚と恋愛 11壮年期～親になること 12中年期～社会的役割の変化 13老年期～継続する変化 14試験 15試験の復習
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義方式
評価方法 Evaluation	平常点（授業態度等）30%，期末テスト70%
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 欠席3回で受講資格を失う 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。
教科書 Textbook(s)	適宜紹介する
参考書 Reference(s)	適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者のストレスについても触れる。
授業計画 Syllabus	第1回：被害者支援の歴史 第2回：被害者の抱える心理的問題 第3回：精神科医療機関における被害者への治療の現状 第4回：犯罪被害者の治療の原則 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：PTSDの治療 第7回：各論：遺族の心理的問題と対応（1） 第8回：各論：遺族の心理的問題と対応（2） 第9回：各論：性暴力被害者の心理的問題と対応 第10回：各論：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第11回：各論：DV被害者の心理的問題と対応 第12回：援助者のストレスと対応 第13回：グループ発表と討議（1） 第14回：グループ発表と討議（2） 第15回：質疑応答と定期試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	講義だけでなく、グループに分かれて発表・討議も行うので、授業への積極的な参加が求められる。
教科書 Textbook(s)	プリントを使用する
参考書 Reference(s)	小西聖子（編著）『犯罪被害者のメンタルヘルス』 誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	非行・犯罪心理学						
担当教員	福本 純一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>現場の視点からみた犯罪と捜査の心理学 多くの犯罪は、普通の人が生活の延長線上で、心のあり方や他者との関係、取り巻く環境などが絡み合って生じた現象といえる。犯罪捜査の現場で経験した事例を教材にして、現場サイドから見た現代の犯罪の特徴や加害者の心理・行動を読み解いていく。 犯罪は特異な人間による所行ではなく、私たちすべてが関わってくる現象であることを知り、私たち自身の身近な問題として犯罪を考える力を身につける。犯罪と向き合い、正しく理解することは、近年始まった裁判員制度にとって必要とされるものであり、さらには犯罪防止につながっていく。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション ~犯罪・捜査と心理学~ 2. 犯罪理論の基礎知識 ~犯罪原因論から犯罪機会論~ 3. 現代の犯罪と非行の特徴 ~指数治安と体感治安~ 4. ひったくり・万引き ~環境犯罪学的視点から見た発生要因~ 5. ストーカー（1） ~ストーキングの定義とストーカーの分類~ 6. ストーカー（2） ~ストーカーの行動（DV）~ 7. 詐欺（1） ~説得のコミュニケーション~ 8. 詐欺（2） ~人はなぜ騙される-オレオレ詐欺~ 9. 薬物乱用 ~薬物依存のメカニズム~ 10. プロファイリング（1） ~理論的基礎-犯罪者の行動と心理~ 11. プロファイリング（2） ~犯罪者プロファイリングの最前線~ 12. ポリグラフ検査（虚偽検出） ~精神生理学的虚偽検出の原理と実際~ 13. 目撃証言 ~目撃者の認知と記憶に及ぼす要因~ 14. 被害者心理・犯罪報道 15. 総括 ~補足とまとめ~（期末レポート提出） 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式による						
評価方法 Evaluation	授業の中で作成・提出する複数回のミニレポートの内容や授業への取り組み姿勢及び試験に代わる期末レポートで総合的に評価する。 評価割合は、期末レポート40%、ミニレポート40%、授業態度20%						
履修上の注意 Requirements and policy	不快な内容も扱うので、受講にあたっては自己の適性等も考慮して選択すること						
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。随時、プリントを配布するので授業内容の補足や見直しに役立つ						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学A／臨床心理学I						
担当教員	中村 博文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：臨床心理学とは何か</p> <p>本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。これらを通じて、臨床心理学の全体像を広く俯瞰することを目的とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か</p> <p>#02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析</p> <p>#03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法</p> <p>#04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法</p> <p>#05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学</p> <p>#06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病</p> <p>#07：臨床心理学の対象②：人格障害</p> <p>#08：臨床心理学の対象③：発達障害</p> <p>#09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期</p> <p>#10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期</p> <p>#11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期</p> <p>#12：臨床心理学的アセスメント</p> <p>#13：臨床心理行為と倫理</p> <p>#14：まとめ、試験</p> <p>#15：試験解題</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回の小レポート（15%）、および期末試験（85%）により行う。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学B／臨床心理学II						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的姿勢の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から、年齢段階ごとの発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について解説する。
授業計画 Syllabus	第1回：ライフサイクルにおける発達課題 第2回：乳幼児期の心理的問題と対応 第3回：幼児期の心理的問題と対応 第4回：児童期の心理的問題と対応 第5回：思春期の心理的問題と対応 第6回：青年期の心理的問題と対応 (1) 第7回：青年期の心理的問題と対応 (2) 第8回：青年期の心理的問題と対応 (3) 第9回：青年期の心理的問題と対応 (4) 第10回：成人期の心理的問題と対応 第11回：中年期の心理的問題と対応 第12回：老年期の心理的問題と対応 第13回：グループ発表と討議 (1) 第14回：グループ発表と討議 (2) 第15回：質疑応答と試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験 (60%) や授業中に出す課題の提出 (20%)、平常点 (20%) などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	講義だけでなく、グループに分かれて発表・討議も行うので、授業への積極的な参加が求められる。
教科書 Textbook (s)	プリントを使用する
参考書 Reference (s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	